

令和2年度

埋蔵文化財調査年報



登り田遺跡(姫路市)

令和3(2021)年12月
兵庫県立考古博物館

例 言

1. 本書は令和2年度に兵庫県教育委員会・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した埋蔵文化財調査事業にかかる年報である。
2. 発掘調査及び出土品整理については、兵庫県立考古博物館が調整業務を行い、兵庫県教育委員会が公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託して実施した。それ以外の事業については兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが協力して実施した。
3. 「発掘調査の概要」は旧国別に編集し、摂津、播磨、但馬、丹波の順に掲載している。
4. 本文中の事業者および事業名は発掘調査実施当時の名称としている。
5. 本文中に使用した遺跡の位置図は、国土地理院発行の電子地形図25000を使用している。
6. 遺跡調査番号は各年度の発掘調査毎に個別に付した番号であり、令和2年度は「2020」で始まる7桁の数字で表記している。
7. 本書は発掘調査成果を速やかに公表することを目的として刊行するものであり、調査成果についてはまだ十分な検討を終えていない。このため今後の出土品整理により、本書の記載内容と異なる検討結果が得られる可能性がある。その際は後日刊行される発掘調査報告書をもって内容の修正を行うものである。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要	1
1 調査の体制	1
2 発掘調査事業の動向	1
3 出土品整理事業の動向	1
4 調査一覧	2
第2章 発掘調査事業の概要	6
1 兵庫津遺跡（神戸市兵庫区）	7
2 玉津田中遺跡（神戸市西区）	11
3 中村群集墳（神戸市西区）	17
4 上戸田遺跡（西脇市）	20
5 登り田遺跡（姫路市）	23
6 才村遺跡（姫路市）	27
7 中筋遺跡（姫路市）	31
8 福井池の下遺跡（相生市）	33
9 広峰遺跡（豊岡市）	36
10 柏原旧城下町（丹波市）	38
第3章 出土品整理事業の概要	41
第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）	43
1 事業の概要	43
2 市町職員研修	43
第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要	44
1 現地説明会の開催	44
2 発掘調査速報のパネル展示	45
3 発掘調査の状況をHPで情報発信	45
4 発掘調査速報会の開催	46
5 ひょうごの遺跡の刊行	47
6 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡～」の実施	47

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

1 調査の体制

平成 24 年度に埋蔵文化財調査部を県立考古博物館から（公財）兵庫県まちづくり技術センター（以下、「センター」いう。）へ移管して以来、国及び県が実施する開発事業に伴う調整、発掘調査計画の策定、事業地内の埋蔵文化財の状況を把握するための分布調査・確認調査・工事立会及び小規模な本発掘調査については県立考古博物館総務部埋蔵文化財課が担当し、大規模な本発掘調査及び出土品整理作業については県教育委員会から委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施している。

それぞれの職員構成は、兵庫県立考古博物館が 4 名、センター埋蔵文化財調査部が調査課 2 課と整理保存課で 21 名である。以下で説明するように、県新規採用職員の派遣、センターでの県 OB 職員・臨時的専門職員の任用により、発掘調査体制を整えた。

センター埋蔵文化財調査部職員の内訳は、12 名が県派遣職員、6 名が県 OB 職員、3 名が臨時的専門職員である。また出土品整理については、29 名の整理技術嘱託員が接合・復元・実測・保存処理等の作業を担当した。

2 発掘調査事業の動向

平成 28 年度は発掘調査量が激減し、平成以降最も少なくなったが、平成 29 年度には一転して増加し、その後は横ばいとなっている、令和 2 年度も前年度とほぼ同じ量を保っており、これは西日本高速道路株式会社による国道 2 号（第二神明道路）建設や、県中播磨県民センター姫路土木事務所による東播磨道路建設など、高規格道路や大規模治水事業に伴う発掘調査が佳境を迎えていることとその他県土木事業に伴う発掘調査が継続的に存在していることによる。

令和 2 年度に実施した調査は「4 調査一覧」のとおりである。内訳は本発掘調査が 14 件、分布調査が 54 件、確認調査が 48 件（保存目的 2 件、破壊状況確認調査 2 件を含む）、工事立会が 11 件である。本発掘調査のうち 11 件はセンターが、3 件については県立考古博物館が実施した。センターが受託した本発掘調査 11 件の内訳は、国事業・他に伴う調査が 7 件、県事業に伴う調査が 4 件、受託事業の調査面積は約 20,000 m²である。

3 出土品整理事業の動向

出土品整理事業については県教育委員会からの委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施した。国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設、同兵庫国道事務所による西脇北バイパス建設など、過去の大型道路事業に伴う出土品整理を継続的に実施するとともに、県道路事業に伴うもの、新温泉町への支援事業として残土処分場整備事業に伴うものを実施し、前年度に比べ事業量は微増した。

令和 2 年度に実施した出土品整理事業は 16 件、内訳は国事業が 7 件、県事業が 8 件、市町事業（新温泉町）が 1 件である。うち 3 件について発掘調査報告書を刊行した。

4 調査一覧

1 本発掘調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2020001	才村遺跡	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	(一) 広畑青山線社会資本整備総合交付金事業	2020/4/7 ~ 2020/8/28	古墳時代の集落跡
2020002	玉津田中遺跡	神戸市西区平野町	西日本高速道路株式会社	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2020/5/11 ~ 2020/8/30	弥生時代・中世の集落跡
2020003	中村群集墳	神戸市西区平野町	西日本高速道路株式会社	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2020/8/18 ~ 2020/11/19	古墳時代前期～後期の古墳群
2020038～040	玉津田中遺跡	神戸市西区平野町	西日本高速道路株式会社	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2020/7/20 ~ 2021/2/4	弥生時代・中世・近世の集落跡
2020004	登り田遺跡	姫路市継	中播磨県民センター姫路土木事務所	事業関連携河川事業	2020/7/21 ~ 2020/1/8	律令期の官衙関連遺跡
2020005	広峰遺跡	豊岡市上佐野	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号豊岡自動車道建設事業	2020/11/9 ~ 2021/1/8	奈良時代の集石墓
2020006	兵庫津遺跡	神戸市兵庫区中之島	企画県民部地域創生局	県庁発祥の地整備事業	2020/9/28 ~ 2021/1/29	近世の町屋跡
2020007	柏原旧城下町	丹波市柏原町	大阪高等裁判所	神戸地家裁柏原支部新営等建築工事	2020/8/24 ~ 2020/10/23	近世の武家屋敷跡
2020008	福井池の下遺跡	相生市若狭野町	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	2021/1/6 ~ 2021/2/24	弥生時代・平安時代の集落跡
2020009	上戸田遺跡	西脇市上戸田	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	2021/1/8 ~ 2021/2/26	弥生時代の集落跡
2020068	中筋遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合交付金事業	2021/2/4 ~ 2021/3/4	古代～中世の集落跡
2020044	有年牟礼・井田遺跡	赤穂市有年牟礼	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	2020/7/28 ~ 2020/8/6	弥生時代～中世の集落跡
2020091	山国・大丹波遺跡	加東市山国	北播磨県民局加東土木事務所	神戸加東線道路改良事業	2021/1/12 ~ 2021/1/20	古代の集落跡
2020108	緑ヶ丘遺跡	伊丹市緑ヶ丘	近畿中部防衛局	伊丹(2) 隊庁舎新設等建築その他工事	2021/1/13 ~ 2021/1/19	近世の集落跡

2-1 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2020019	コウロギ16号墳・ホウキ38号墳	豊岡市日高町中郷	豊岡農林水産振興事務所	復旧治山事業	2020/4/13	埋蔵文化財なし
2020021	小野段林遺跡	宍粟市波賀町小野	光都農林振興事務所	緊急予防治山事業	2020/5/13	埋蔵文化財あり
2020022	野々上塚谷古墳	宍粟市山崎町野々上	光都農林振興事務所	予防治山事業	2020/5/13	埋蔵文化財なし
2020023		宍粟市山崎町門前	光都農林振興事務所	予防治山事業	2020/5/13	埋蔵文化財あり
2020024	加生6号墳	宍粟市山崎町加生	光都農林振興事務所	予防治山事業	2020/5/13	埋蔵文化財なし
2020025		加古川市平荘町山角	加古川土木事務所	神戸加古川姫路線道路改良事業	2020/5/20	埋蔵文化財あり
2020026	池尻1～5号墳・市場南1～5号墳	小野市市場町・池尻町	加東土木事務所	東播磨南北道路事業	2020/5/19	埋蔵文化財あり
2020027	沖代遺跡	たつの市沖代	龍野土木事務所	(一) 網干停車場新舞子線道路改良事業	2020/5/22	埋蔵文化財あり
2020028		姫路市網干区高田	姫路土木事務所	(一) 網干停車場新舞子線道路改良事業	2020/5/22	埋蔵文化財あり
2020033		加東市上滝野	姫路河川国道事務所	滝見橋周辺整備工事	2020/5/20	埋蔵文化財なし
2020034	吉見土古墳	佐用町佐用	光都土木事務所	(一) 上福原佐用線道路拡幅事業	2020/5/27	埋蔵文化財なし
2020035		佐用町下石井	光都土木事務所	(国) 373号道路改良事業	2020/5/27	埋蔵文化財なし
2020036		佐用町上石井	光都土木事務所	(国) 373号道路改良事業	2020/5/27	埋蔵文化財なし
2020037		姫路市夢前町古瀬畑	姫路土木事務所	(砂) 古瀬畑川通常砂防事業	2020/6/11	埋蔵文化財なし
2020041		姫路市峰南町	陸上自衛隊姫路駐屯地	隊庁舎解体	2020/6/23	埋蔵文化財なし
2020043		豊岡市日高町谷	豊岡土木事務所	(主) 日高竹野線拡幅事業	2020/6/24	埋蔵文化財なし
2020048	中村群集墳	神戸市西区平野町	西日本高速道路(株)関西支社	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2020/7/13	埋蔵文化財なし
2020051	南町遺跡隣接地	伊丹市南町	兵庫県住宅供給公社	伊丹南町団地建替事業	2020/7/27 ~ 2020/7/29	埋蔵文化財あり

2-2 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要	
2020052	谷口古墳	香美町	新温泉土木事務所	通常砂防事業(砂)大糠川	2020/7/17	2021/1/25	埋蔵文化財なし
2020055	鳥羽経塚	多可町加美区鳥羽	兵庫みどり公社	緊急防災林事業	2020/8/19		埋蔵文化財あり
2020056	城山刻印群	芦屋市山芦屋町	兵庫県森林管理署	城山落石対策工事	2020/8/17		埋蔵文化財なし
2020057		尼崎市水堂町	法務省神戸地方検察庁	神戸地方検察庁尼崎支部庁舎新営工事	2020/8/24		埋蔵文化財なし
2020058	神呪寺遺跡	西宮市甲山町	西宮土木事務所	防災工事	2020/9/3		埋蔵文化財なし
2020060		市川町下牛尾	兵庫みどり公社	緊急防災林事業	2020/8/19		埋蔵文化財なし
2020062	出石第1散布地	宍粟市山崎町須賀沢	龍野土木事務所	出石地区急傾斜崩壊対策事業	2020/12/16		埋蔵文化財あり
2020063	安黒御山1~15号墳、 嶋田湯ノ郷山1~15号 墳、岩池1~3号墳	宍粟市一宮町嶋田	龍野土木事務所	(砂)湯ノ郷川砂防堰堤工事	2020/8/20		埋蔵文化財あり
2020070		宍粟市山崎町宇野	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/11/5		埋蔵文化財なし
2020071		姫路市安富町	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/11/5		埋蔵文化財なし
2020072	千本桑谷遺跡	たつの市新宮町千本	兵庫みどり公社	野生動物共生林整備事業	2020/11/5		埋蔵文化財あり
2020073	平野遺跡	上郡町山野里	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/11/5		埋蔵文化財あり
2020074		佐用町金屋	兵庫みどり公社	野生動物共生林整備事業	2020/11/5		埋蔵文化財なし
2020075	阿弥陀寺周辺散布地・ 熊野部西田遺跡	多可町加美区熊野部	兵庫みどり公社	野生動物共生林整備事業	2020/11/19		埋蔵文化財あり
2020076		多可町八千代区大和	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/11/19		埋蔵文化財なし
2020077	円満寺遺跡	多可町中区西安田	兵庫みどり公社	緊急防災林整備事業	2020/11/19		埋蔵文化財あり
2020078		加西市坂本町	兵庫みどり公社	野生動物共生林整備事業	2020/11/19		埋蔵文化財なし
2020079		福崎町八千種	兵庫みどり公社	野生動物共生林整備事業	2020/11/19		埋蔵文化財あり
2020081	成相寺跡	南あわじ市八木馬回	洲本農林水産振興事務所	緊急防災林事業	2020/10/7		埋蔵文化財あり
2020082	浅野古墳	養父市浅野	朝来農林振興事務所	復旧治山事業	2020/10/15		埋蔵文化財あり
2020083		丹波篠山市波賀野	丹波土木事務所	波賀野川河川改修工事	2020/11/10		埋蔵文化財なし
2020087		豊岡市戸牧~新堂	国交省豊岡河川国道事務所	一般国道483号豊岡道路Ⅱ期	2020/12/1	2020/12/2	埋蔵文化財あり
2020089		明石市大久保町	西日本高速道路(株)関西支社	一般国道2号(第二神明道路)付加車線事業	2020/12/7		埋蔵文化財なし
2020096	大門・畑瀬散布地	西脇市大門	加東土木事務所多可事業所	(砂)不動ヶ谷川通常砂防事業	2020/12/17		埋蔵文化財あり
2020097	的場天一目神社周辺 遺跡	多可町加美区	加東土木事務所多可事業所	(砂)丁田谷川通常砂防事業	2020/12/17		埋蔵文化財あり
2020099		三木市吉川町	環境創造局鳥獣対策課	県立総合射撃場(仮称)整備	2021/1/29		埋蔵文化財あり
2020100	本田遺跡、中村遺跡	養父市大屋町	養父土木事務所	養父穴栗線 門野BP	2021/2/12		埋蔵文化財あり
2020105		佐用町門光寺	光都土木事務所	通常砂防事業(大酒谷川)	2020/11/10		埋蔵文化財なし
2020106		赤穂市御蔵	光都土木事務所	(急)御蔵地区 急傾斜地崩壊対策工事	2020/11/10		埋蔵文化財なし
2020107	周世・入相遺跡	赤穂市周世	光都土木事務所	(一)周世尾崎線 道路防災工事	2020/12/16		埋蔵文化財なし
2020109		姫路市相野	姫路土木事務所	(主)姫路上郡線歩道整備工事	2020/8/17		埋蔵文化財なし
2020113		姫路市夢前町	姫路土木事務所	(主)姫路神河線歩道整備	2021/2/25		埋蔵文化財なし
2020114		豊岡市日高町	国交省豊岡河川国道事務所	一級河川円山川 鶴岡地区無堤対策	2021/2/22		埋蔵文化財なし
2020125		多可町加美区	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/9/8		埋蔵文化財なし
2020128		姫路市夢前町	姫路土木事務所	(一)山之内筋野姫路線道路改良事業	2020/6/17		埋蔵文化財なし
2020130		市川町下牛尾	姫路土木事務所	(主)西脇八千代市川線道路改良工事	2021/2/15		埋蔵文化財なし

3-1 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2020010	才ノ木西遺跡	養父市小路頃	養父土木事務所	(急)小路頃(1)地区 急傾斜地崩壊対策事業	2020/6/16 ~ 2020/6/22	埋蔵文化財なし
2020011	赤道遺跡	養父市出合	養父土木事務所	(急)出合(2)地区 急傾斜地崩壊対策事業	2020/8/11	埋蔵文化財なし
2020013	陰石切り場遺跡群	豊岡市上陰	豊岡土木事務所	(砂)上陰東谷1 通常砂防事業	2020/4/28	埋蔵文化財なし
2020014		朝来市和田山町	養父土木事務所	(砂)高瀬川 通常砂防事業	2020/4/15	埋蔵文化財なし
2020015	有年原・田中遺跡	赤穂市有年	光都土木事務所	背水対策工事(二)千種川水系 矢野川	2020/4/7	埋蔵文化財なし
2020016	コンピラ山遺跡	上郡町山野里	光都土木事務所	(急)丹東(2)地区 急傾斜地崩壊対策工事	2020/6/22	埋蔵文化財なし
2020017	小谷城関連遺跡	加西市小谷	加東土木事務所	(砂)小谷川防堰堤工事	2020/4/7 ~ 2020/4/8	埋蔵文化財あり
2020018	横田遺跡	丹波市水上町	丹波土木事務所	(砂)横田中谷川通常砂防事業	2020/4/16	埋蔵文化財なし
2020030	上津遺跡	神戸市北区長尾町	企業庁猪名川広域水道事務所	三田西宮連絡管送水管布設工事	2020/4/3 ~ 2022/5/29	埋蔵文化財あり
2020031	宅原遺跡群	神戸市北区長尾町	企業庁猪名川広域水道事務所	三田西宮連絡管送水管布設工事	2020/4/3 ~ 2022/5/29	埋蔵文化財あり
2020032	緑ヶ丘遺跡	伊丹市緑ヶ丘	近畿中部防衛局	伊丹駐屯地隊庁舎新設	2020/4/20 ~ 2020/5/22	埋蔵文化財あり
2020046		豊岡市日高町	国交省豊岡河川国道事務所	一般国道483号日高豊岡南道路建設事業	2020/6/27 ~ 2020/6/29	埋蔵文化財なし
2020047	明石公園遺跡	明石市明石公園	まちづくり局公園緑地課	明石公園リノベーション事業	2020/8/24 ~ 2020/9/4	埋蔵文化財あり
2020049	穴見遺跡	新温泉町居組	新温泉土木事務所	穴見海岸道路景観・駐車施設等整備工事	2020/9/23	埋蔵文化財なし
2020050	池尻1~5号墳・市場南1~5号墳	小野市市場町・池尻町	加東土木事務所	(主)加古川小野線東播磨南北道路事業	2020/6/25 ~ 2020/7/1	埋蔵文化財あり
2020053		洲本市宇山	国交省兵庫国道事務所	一般国道28号洲本バイパス事業	2020/7/30	埋蔵文化財なし
2020054	焼ヶ辻遺跡	豊岡市日高町	兵庫県教育委員会	日高高校講義棟建替	2020/8/18 ~ 2020/8/21	埋蔵文化財なし
2020061	市原南地区散布地	多可町加美区門村	兵庫みどり公社	緊急防災林事業	2020/5/27	埋蔵文化財なし
2020064		兵庫県千種町千草	龍野土木事務所	国道429号(防災・安全交付金事業)歩道設置工事	2020/10/13	埋蔵文化財なし
2020065	小野藩陣屋遺跡	小野市西本町	小野高等学校	県立小野高等学校熱中症対策施設設置工事	2020/10/20	埋蔵文化財なし
2020067	竹藤遺跡	加東市天神・竹藤	加東土木事務所	(主)小野藍本線道路改良事業	2020/7/30 ~ 2020/10/22	埋蔵文化財あり
2020069	六分一遺跡	稲美町六分一	加古川土木事務所	(主)宗佐土山線天満大池バイパス	2020/10/27 ~ 2020/11/16	埋蔵文化財なし
2020084	山国・大丹波遺跡	加東市山国	加東土木事務所	神戸加東線道路改良事業	2020/11/16	埋蔵文化財あり
2020085	北中遺跡	丹波市柏原町	丹波土木事務所	(急)北中1地区	2020/11/25 ~ 2020/11/26	埋蔵文化財あり
2020088	中村群集墳	神戸市西区平野町	西日本高速道路(株)関西支社	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2020/12/3 ~ 2020/12/25	埋蔵文化財なし
2020090	和坂散布地	明石市和坂	加古川土木事務所明石事業所	国道2号和坂拡幅	2021/2/9	埋蔵文化財なし
2020092	木津遺跡	猪名川町木津	阪宝塚土木事務所	川西篠山線道路改良	2021/1/20	埋蔵文化財なし
2020094	旧長谷寺伽藍	佐用町奥金近長谷	光都土木事務所	(砂)森谷川防堰堤工事	2020/10/22 ~ 2020/11/12	埋蔵文化財あり
2020103		香美町小代	新温泉土木事務所	(国)482号大谷BPⅡ道路改築事業	2020/11/26	埋蔵文化財あり
2020111	郷着遺跡	姫路市広畑区	姫路土木事務所	(一)広畑青山線社会資本整備総合交付金事業	2021/2/10	埋蔵文化財なし
2020112	才村遺跡	姫路市広畑区	姫路土木事務所	(一)広畑青山線社会資本整備総合交付金事業	2020/5/1 ~ 2020/5/4	埋蔵文化財あり
2020118	栄根庵寺・栄根遺跡	川西市栄根	宝塚土木事務所	(都)呉服橋本通り線(寺畑工区)	2021/2/8 ~ 2021/2/9	埋蔵文化財なし
2020120	秋葉遺跡	豊岡市上佐野	国交省豊岡河川国道事務所	国道483号北近畿豊岡自動車道豊岡道路2号工事用道路	2021/3/10	埋蔵文化財なし
2020123	高見城跡	丹波市高見	丹波土木事務所	県単独緊急防災事業	2020/11/4	埋蔵文化財なし
2020098		新温泉町浜坂	新温泉土木事務所	地域連携推進(道路改築)事業((国)178号浜坂道路Ⅱ期)	2020/10/7 ~ 2020/10/14	埋蔵文化財あり
2020102	加里屋川	赤穂市砂子	光都土木事務所	(二)千種川水系加里屋川護岸改修工事	2021/2/1	埋蔵文化財なし
2020104		たつの市龍野町	龍野土木事務所	(一)山根川総合流域防災事業	2020/8/19	埋蔵文化財なし
2020110		市川町上瀬加	姫路土木事務所福崎事業所	(主)西脇八千代市川線(上瀬加)歩道整備事業	2021/2/24	埋蔵文化財なし
2020115	緑ヶ丘遺跡	伊丹市緑ヶ丘	陸上自衛隊伊丹駐屯地	倉庫解体	2021/2/24	埋蔵文化財なし
2020119		姫路市井ノ口	姫路土木事務所	都市計画道路 荒川線	2021/1/25	埋蔵文化財なし

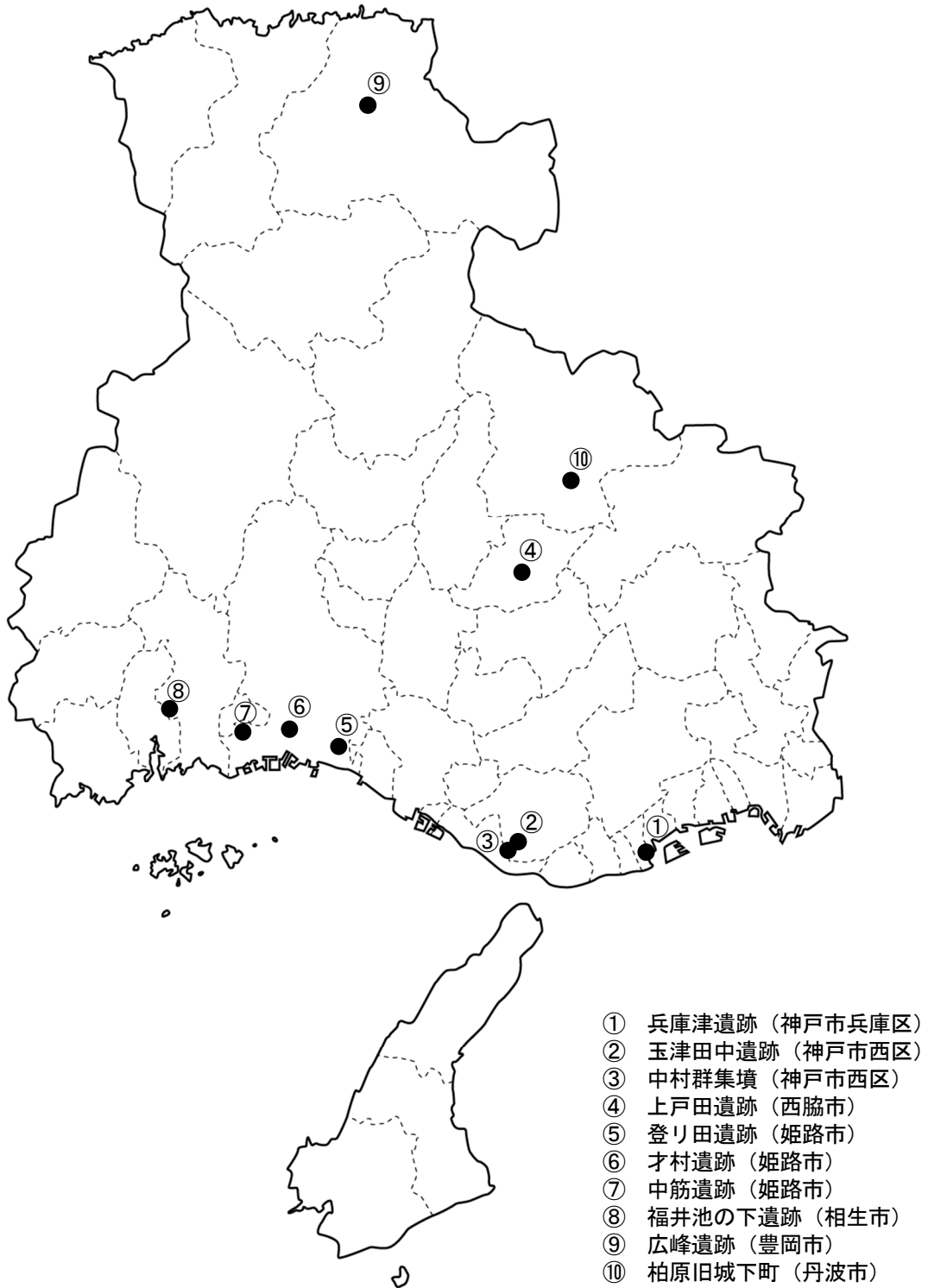
3-2 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2020122	小野段林遺跡	宍粟市波賀町	光都農林振興事務所	緊急予防治山事業	2020/4/28 ~ 2020/4/28	埋蔵文化財あり
2020126		多可町加美区	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/9/15	埋蔵文化財なし
2020127		姫路市香寺町	姫路土木事務所	(一)久畑香呂線道路改良事業	2020/6/8	埋蔵文化財なし
2020042	登り田遺跡隣接地	姫路市継	姫路土木事務所	事業間連携河川事業	2020/9/28 ~ 2020/11/11	埋蔵文化財あり
2020066	北王子遺跡	明石市北王子町	兵庫県病院局	県立がんセンター	2020/10/14 ~ 2020/12/22	埋蔵文化財あり
2020116	辻が内遺跡	上郡町佐用谷	兵庫県立考古博物館	古代官道調査研究事業	2021/2/24 ~ 2021/3/17	駅家関連遺跡
2020095	城山刻印群	芦屋市精道町	西宮土木事務所	(一)奥山精道線道路防災工事	2012/1/8	埋蔵文化財なし
2020131	奥山刻印群	芦屋市山芦屋町	西宮土木事務所	(一)奥山精道線災害復旧工事	2021/1/8	埋蔵文化財なし

4 工事立会

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2020020	美賀城跡	姫路市飾磨区	近畿財務事務所	地下埋設物調査	2020/4/22	埋蔵文化財なし
2020045	遠坂遺跡	丹波市青垣町	丹波土木事務所	国道427号歩道リニューアル	2020/6/29	埋蔵文化財あり
2020059	宅原遺跡群	神戸市北区長尾町	企業庁猪名川広域水道事務所	三田西宮連絡管送水管布設工事(長尾工区)	2020/9/1 ~ 2020/9/20	埋蔵文化財あり
2020080	小野藩陣屋遺跡	小野市西本町	小野高等学校	県立小野高等学校熱中症対策施設設置工事	2020/10/21 ~ 2020/10/22	埋蔵文化財あり
2020086	旧三の宮駅構内遺跡	神戸市中央区下山手通	兵庫県警察本部	兵庫県警察本部第二庁舎擁壁改修工事	2020/12/4 ~ 2020/12/7	埋蔵文化財なし
2020093	平野遺跡	上郡町山野里	兵庫みどり公社	里山防災林整備事業	2020/12/7	埋蔵文化財なし
2020101	鶴島城跡	南あわじ市福良	近畿地方環境事務所	南淡路野営場進入路及びキャンプサイト改修工事	2020/12/3 ~ 2021/1/21	埋蔵文化財なし
2020117	兵庫津遺跡	神戸市兵庫区中之島	地域創生局地域資源課	県庁発祥の地整備事業	2021/2/18 ~ 2021/2/22	埋蔵文化財あり
2020121	柏原旧城下町	丹波市柏原町	大阪高等裁判所	神戸地家裁柏原支部新営等建築工事	2021/3/3 ~ 2021/3/16	埋蔵文化財あり
2020124	豊岡城館跡	豊岡市京町	兵庫県教育委員会	豊岡高等学校改修整備	2020/10/2	埋蔵文化財なし
2020129	田ノ脇西遺跡	淡路市岩屋	洲本土木事務所	予防治山事業	2021/2/24	埋蔵文化財なし

第2章 発掘調査事業の概要



令和2年度発掘調査遺跡の位置

ひょうごつ
1 兵庫津遺跡

遺跡調査番号 2020006

所在地 神戸市兵庫区中之島2丁目
事業者名 兵庫県企画県民部
地域創生局地域遺産課
事業名 県庁発祥の地整備事業
担当者 野田優人・山上雅弘
種別 本発掘調査
期間 令和2年9月28日～令和3年1月29日
面積 1,603㎡



遺跡の位置（「神戸南部」）

1 調査に至る経緯

企画県民部地域創生局地域遺産課が実施する県庁発祥の地整備事業予定地において、確認調査を実施したところ兵庫津遺跡にかかる町屋などの遺構が検出されたため本発掘調査を実施することとなった。

2 調査の概要

【調査地点の概要】

調査区は港湾都市兵庫津遺跡の江戸時代における町並みの南端に位置する。北側には天正9年(1581)に築城された兵庫城があった。なお、同城の場所は近代に短期間であるが初代兵庫県庁となった。

兵庫城より南側である調査区周辺は江戸時代になって市街化が進んだとされ、絵図の変遷や調査成果からみると少なくとも17世紀前半から開発が進んでいたようである。

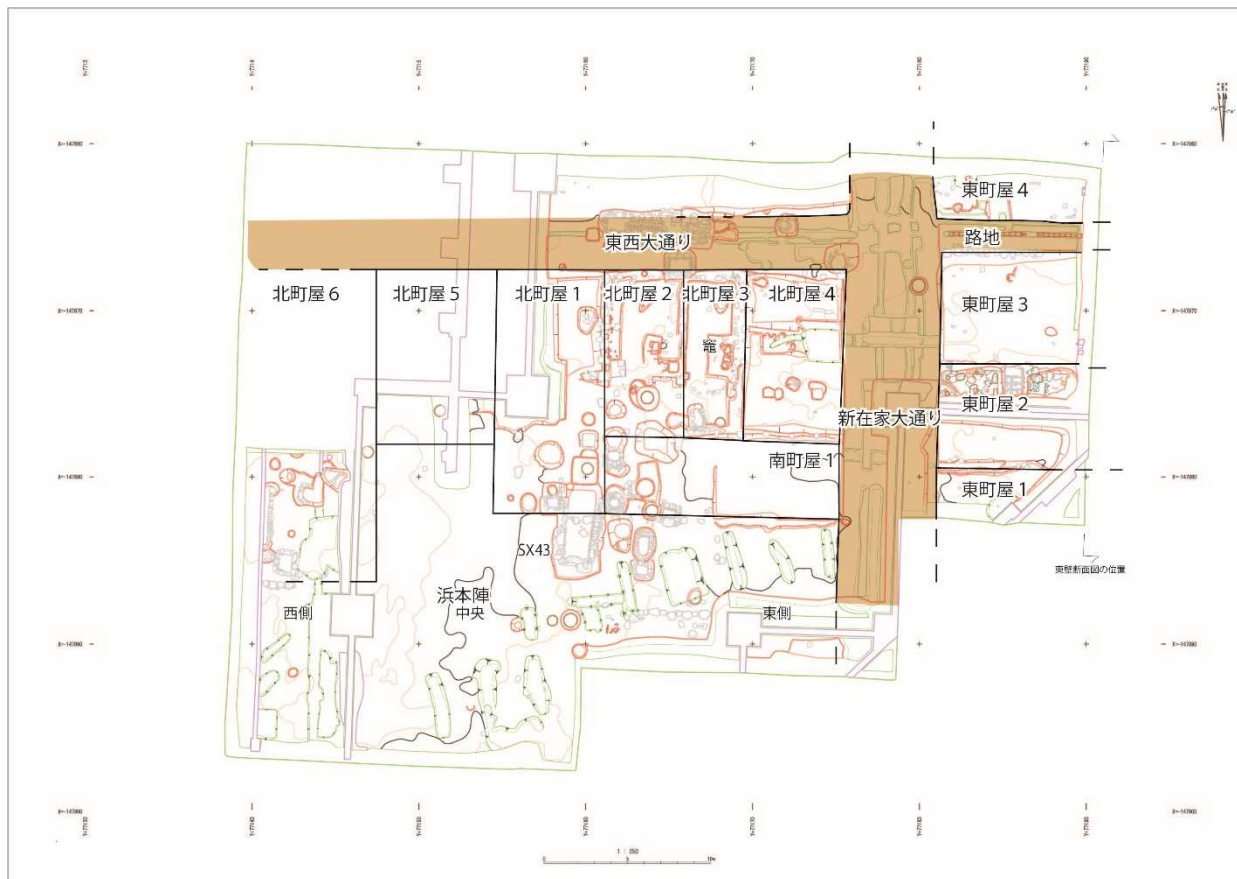
調査成果を「新在家町水帳絵図」（天保9年(1836)、以下水帳）で照合すると、東寄りに南北に通る新在家大通、北端に東西方向に通る大通（以下、東西大通）の街路、東西大通に北向きの町屋群および新在家大通に東西両側の町屋群、そして南側の広い範囲を浜本陣が占めることが明らかとなった。そして、江戸時代初期からこの町割り近代まで継承され、それぞれの屋敷地内に建物が繰り返し造成を伴いながら建て替えられていた。

一方、調査地周辺は海路参勤交代で逗留する大名の浜本陣が集中するとされ、調査地の浜本陣は網屋新九郎が所有した。これらの浜本陣の多くは朝鮮通信使来朝の際には、通信使一行の宿泊場所にもなった。「朝鮮正使等宿間取図」（尼崎市教育委員会所蔵）によれば宝暦14年(1764)の徳川家治将軍代替わりの時の通信副使は、この網屋新九郎家の浜本陣に逗留したとされる。

本陣および町屋からは建物に関わる礎石や建物外周に貼られた瓦列などの他、竈・囲炉裏、礎石、石組土坑（方形・不定形）・石組井戸・素掘井戸・土坑・廃棄土坑などを検出した。



遺跡遠景（西北から）



調査区全体図

これに伴って出土した遺物は17世紀代のものと、江戸時代中期以降のものがある。17世紀代の主なものとしては土師器小皿・炮烙・香炉・焜炉、瓦質火鉢、伊万里焼皿、瀬戸焼丸皿・灰釉碗・天目碗、唐津焼皿・大皿・碗・向付・鉢、丹波焼播鉢・甕・盤・小壺、備前焼甕・播鉢・德利、中国産白磁皿・染付皿・大皿・鉢・碗・天目碗などがある。江戸時代中期以降のものでは肥前系磁器碗・皿、関西系陶器播鉢・甕・德利・施釉陶器灯明皿などがある。

この他には瓦類、土製品、石製品・金属製品がある。瓦類は丸瓦・平瓦があるが17世紀代の軒瓦は軒丸瓦が中心で、軒平瓦は確認できない。ただし18世紀以降の瓦には軒平瓦が含まれ、棧瓦も多く出土している。さらに、幕末以降では井戸枠に専用の大型の瓦がある。

石製品では宝篋印塔・五輪塔・一石五輪塔・釘抜き・茶臼・石臼・硯などがある。これらの石材は石組土坑や礎石などに多くが転用されていた。金属製品では銭貨(緡銭を含む)・釘・釣針・分銅・煙管・筭、木製品では箸、土製品では土人形(城形)・土錘(管状土錘・有溝土錘)・面子・有孔円板、自然遺物としては貝殻・動物の骨などがある。

【浜本陣】

浜本陣は東側が新在家大通りに面し、北側は北町屋と境を接している。



浜本陣礎石建物(南から)

浜本陣の造成は町屋と異なって大量の土砂を一気に嵩上げし、盛土上面に部分的に粘土や土壌化した土砂を貼っていた。造成土のうち焼土混りの土砂に17世紀前半代の中国産磁器・初期伊万里・唐津焼・丹波焼が大量に混入する。

浜本陣は東側では3面の調査を行ったが、1面目は焼土が堆積しており、近代の井戸・竈などと礎石および攪乱土坑・瓦溜りを検出した。2面目は東側で囲炉裏と礎石の並びを検出し、西側で大型石組み土坑(写真)・土坑などを検出した。3面目は部分的な調査で砂をベースとする。ただし近代以降の開発によって1・2面目は攪乱が著しく、遺構を検出したものの、建物の間取りなどの詳細は明らかにできなかった。



大型石組み土坑(北から)

【町屋】

町屋は1・2面が開発によって攪乱を受けており遺存状態が良好ではない。標高1.3m前後～標高0m前後までの調査を実施した。この間、6～7面の遺構面が存在した。ただし、標高0mより下層については湧水のため調査を断念した。各町屋は10cm前後の砂を主体とする造成土によって徐々に嵩上げするもので、規模が小さく浜本陣とは大きく異なる。町屋の時期は1～3面目が18世紀前後で、4面～6面目が17世紀代前半である。

北町屋は間口側2/3の範囲に建物が建ち、背後は裏地となる構造をもつ。建屋の部分には建物が建つと共に路地となる通り庭があったと推定され、その部分に北町屋3・4、東町屋2・4では作り付けの竈が検出された。また、裏地からは石組み土坑・石組井戸・土坑などが密集した状態で検出された。

東町屋2は1面目の床面で炭化した状態で建物の柱材や建具などが出土し、炭と焼土が厚く堆積していた。このことから、東町屋2は火災にあった状態のまま上面の整地が行われたものと思われる。



唐津焼向付出土状況



染付大皿出土状況



東町屋2 焼土検出状況



町屋裏地の石組土坑（南から）



町屋裏地の石組土坑（東から）

各町屋の境は粘土などの土砂によって区画し、この中に陶磁器などの生活雑器・礎石や墓石などの転用石材が大量に投棄されていた。

【街路】

新在家大通は南北に通る大通りで幅は6m前後、東西大通りは幅3m以上、路地は2m前後である。道路面上層は近代の攪乱が著しいが、下層ではそれぞれ版築によって丁寧な造成を行っていた。中でも新在家大通りは10cm～15cm前後の単位で砂・土砂を互層に積んだ上、転圧をかけて路面を硬化させていた。下層は標高0mまで検出した。版築による盛土の厚さは1.5m前後に及ぶ。



新在家大通りの版築の状況（南から）

このほか東西大通りでは道路上に石組土坑・井戸が構築される。このうち北町屋6の北側で検出した石組土坑は内部から17世紀初頭～前半頃の遺物が大量に出土した。石組土坑としては古いもので、この石材に墓石（五輪塔・宝篋印塔）・釘抜きが転用され、一石五輪塔地輪の一面に文禄四年の年銘が刻まれていた。

3 まとめ

今回の調査によって、調査地は17世紀初頭には造成によって市街地化が進められ、街区が成立していることが明らかになった。また、この江戸初期に町立てされた街区や敷地の区画は江戸時代を通じて踏襲され近代まで存続したことも明らかになった。

一方、町屋と浜本陣の間では、大きく造成が異なり、浜本陣は粘土・礫を含む様々な土砂を大規模に造成するのに対して、町屋では屋敷ごとに砂を中心とする客土を6～7回に亘って徐々に行っていた。さらに、町屋では個々の屋敷ごとに客土を行うので、町屋相互が平行に嵩上げしないことも明らかになっており、兵庫津の町屋造成を知る上で興味深い成果をえることができた。

このほか調査に伴って多くの陶磁器を中心とする遺物の出土があったが、これらには備前焼・丹波焼・唐津焼・中国産磁器など多彩なものが含まれていた。特に浜本陣周辺からは中国産磁器が大量に出土しており、港湾都市として栄えた兵庫津の経済力を示す貴重な成果となった。

たまつたなか
2 玉津田中遺跡

遺跡調査番号 2020002・2020038・2020039・2020040

所在地 神戸市西区平野町
事業者名 一般国道2号（第二神明道路）建設事業
事業名 西日本高速道路(株)関西支社
第二神明道路事務所
担当者 山田清朝・園原悠斗・稲本悠一
山上雅弘・別府洋二・松崎光伸
種別 本発掘調査
期間 令和2年5月11日～12月18日
面積 6,725 m²



遺跡の位置（「東二見」）

1 調査に至る経過

西日本高速道路（株）関西支社第二神明道路事務所による一般国道2号（第二神明道路）の建設に伴い、県教育委員会が平成30年度に確認調査を行った。その結果、玉津田中遺跡として周知されているNo.164地点・No.167地点・No.171地点・No.175地点の4地点で埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかとなった。また、令和元年度の本発掘調査では、No.164地点・No.171地点・No.175地点の調査を実施した。本年度は、No.167地点（遺跡調査番号：2020038）・No.171地点（遺跡調査番号：2020002・2020039）・No.175地点（遺跡調査番号：2020040）の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

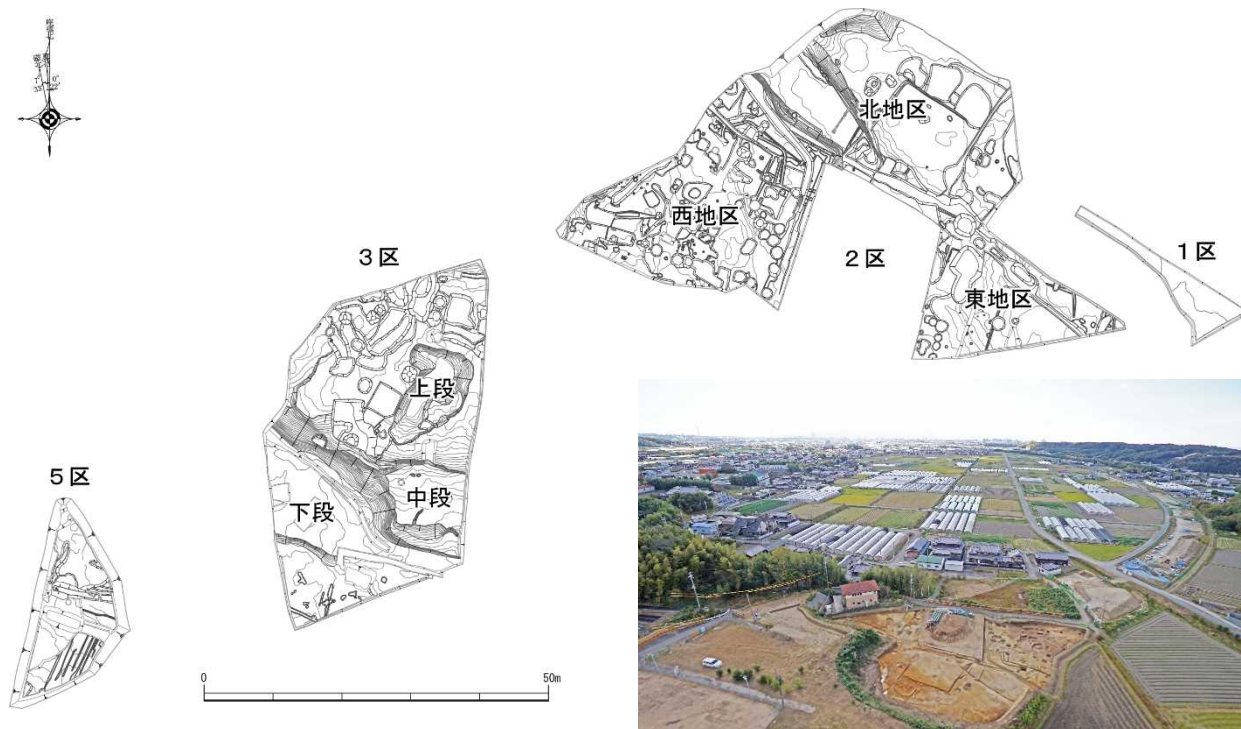
【No.167 地点】

明石川左岸の河岸段丘上および段丘崖下が調査対象となり、1区～3区・5区の調査を実施した。調査の結果、2区・3区・5区では、主に近世以降の遺物を包含する土坑・溝・柱穴などの遺構を検出した。

2区は東地区・北地区・西地区に分かれる。北地区では、西半部に人為的な盛り土を行って平場が形成され、生活面・耕作面として利用されている。特に、中段の盛り土の落ち際に堆積した土層には中世後半までの土器が多く含まれており、この時期以降、整地を繰り返していたことが明らかとなった。西地区では、直径2mを超える円形土坑が連なるように掘削されており、これらは桶などを埋置した溜井の可能性が高い。小型のものには底板が残るものも存在した。この他にも、深さ1.5m以上の素掘り井戸や方形板組の井戸を検出した。いずれの地区でも中央部分に土坑などが掘削されておらず、建物が建てられていた可能性が高いと思われる。これらのことから、2区では江戸時代以降、少なくとも3軒分の屋敷が存在した可能性がある。

3区は段丘崖を挟んで上段・中段・下段の3段に分かれて平坦部を作り出していた。上段では、規模や平面形が様々な土坑や井戸を検出し、埋土中から近世頃の土器や瓦が出土した。土坑の多くは、壁面が抉れ、粘質度の高いシルト層を掘り抜いていること、埋土から多量の瓦が出土したことなどから、近隣寺院などの瓦葺き建物の補修用瓦製作に伴う粘土採掘坑と考えられる。また、中段から下段にかけて、火山灰層を確認した。この層の下層からは、風化の著しいサヌカイト製薄片1点出土している。

段丘崖下の5区は、遺構が稀薄だが、畦畔と結桶を2段に重ねた江戸時代後半の井戸を検出した。



No. 167 地点 調査区配置図と調査地点遠景写真（北上空から）



2区 全景（南上空から）



3区 全景（西上空から）



3区下段 火山灰層検出状況（西から）



5区 井戸検出状況（東から）

【No. 171 地点】

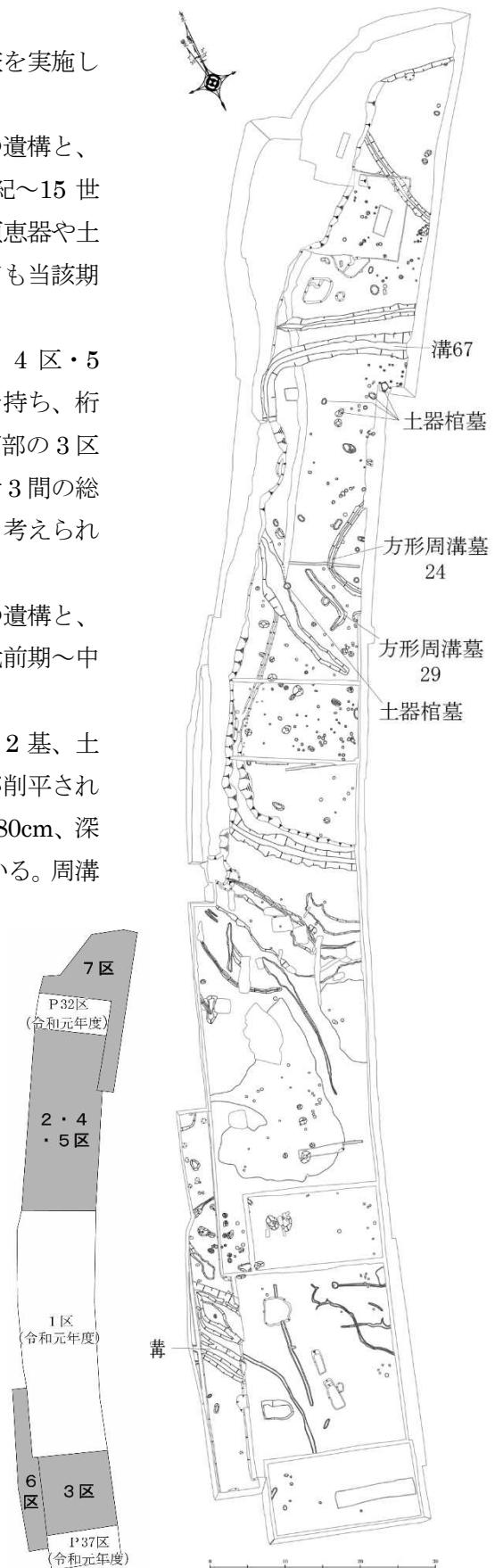
令和元年度の調査区と隣接する形で、2区～7区の調査を実施した。各地区で2面の遺構面を検出している。

第1面 掘立柱建物跡、溝、鋤溝、土坑、柱穴など、多数の遺構と、旧河道を検出した。出土遺物の量は僅かであるが、14世紀～15世紀代の中世のものが多く、遺構面検出時及び遺構内より須恵器や土師器などが出土している。時期を推定しうる遺構についても当該期のものが多い。

掘立柱建物跡は2棟を復元できた。1棟は調査区北部、4区・5区・7区にまたがって位置する。北西－南東方向に主軸を持ち、桁行3間・梁行2間の総柱建物である。もう1棟は調査区南部の3区に位置する。北東－南西方向に主軸を持つ桁行4間・梁行3間の総柱建物である。いずれも出土遺物から15世紀頃のものと考えられる。調査区の北西側では南北方向の旧河道を検出した。

第2面 方形周溝墓、土器棺墓、溝、土坑、柱穴など多数の遺構と、旧河道を検出した。遺構面検出時及び遺構内より弥生時代前期～中期前葉の土器や石器が出土している。

調査区北部の2区・4区・5区・7区では、方形周溝墓2基、土器棺墓5基を検出した。方形周溝墓は墳丘及び埋葬施設が削平されており、周溝のみを検出した。方形周溝墓24の周溝幅は80cm、深さは40cm～50cmである。南西コーナーは浅く掘られている。周溝の内々で墳丘長を測ったとき、比較的遺存率の高い南西－北東辺の長さは10m以上である。また方形周溝墓29は削平の影響が著しく、L字状に伸びる周溝の一端のみを検出した。これら方形周溝墓の周溝内からは弥生時代前期後半の土器が出土している。また、土器棺墓は5基検出しており、北側に集中する4基のうち3基は壺、1基は甕を転用し、方形周溝墓29に近接する1基は甕を転用している。令和元年度の調査でも2基検出しており、当地点において検出した土器棺墓は合計7基を数える。ただし、多くは遺存状態が良好ではないため、墓ではなく土器埋設土坑の可能性も考えられる。5基とも土器の様相から、弥生時代前期後半に位置づけられる。溝67は、2区・4区・5区・7区にまたがって検出している。東西方向に伸びており、東側は調査区外へ続く。幅は約2.5m、深さは約1.1mで、断面形状は逆台形である。遺物は、弥生時代前期の土器や、土製紡錘車、サヌカイト片、石皿とみられる円盤状の石器が出土した。



第2面 平面図

調査区南部の3区・6区でも、弥生時代前期から中期前葉の溝、土坑、柱穴を検出している。

加えて、調査区北西部では、旧河道と段丘崖を検出しており、本調査区が微高地の縁辺部にあたることが明らかになった。なお、7区では、2面目より下層の遺構の有無を確認するためにさらに人力掘削を行ったところ、2面目の約0.2m～0.3m下の礫層から縄文時代晩期の浅鉢が出土した。礫層は洪水堆積によるもので、微高地が縄文時代晩期以降に形成されたことを示している。



第2面 方形周溝墓 全景（南西から）



土器棺検出作業



第2面 溝67（北西から）



第2面 溝67 土器出土状況（東から）



6区 第2面 溝（東から）



調査地点 遠景（北から）

【No. 175 地点】

1・2区と3区の調査を実施した。1区・2区では2面、3区では3面の遺構面を検出している。

1・2区 第1面では、土坑や柱穴を検出し、2棟の掘立柱建物跡を復元できた。令和元年度の調査成果と合わせて、掘立柱建物跡1は南北3間分、掘立柱建物跡2は3間×2間の柱穴を検出しており、建物は調査区の東側にさらに広がるものと考えられる。後者は、古代の時期のものと考えられる。

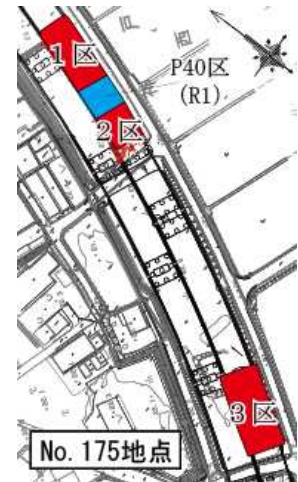
第2面では、水田面を検出した。水田は高さ約7cm～10cmの畦畔で区画される。一枚の形状は方形で、いずれも一辺が2m～3m程度の小区画水田である。遺物が出土しておらず、水田の機能時期は不明である。

3区 2区の約100m南側に位置する。

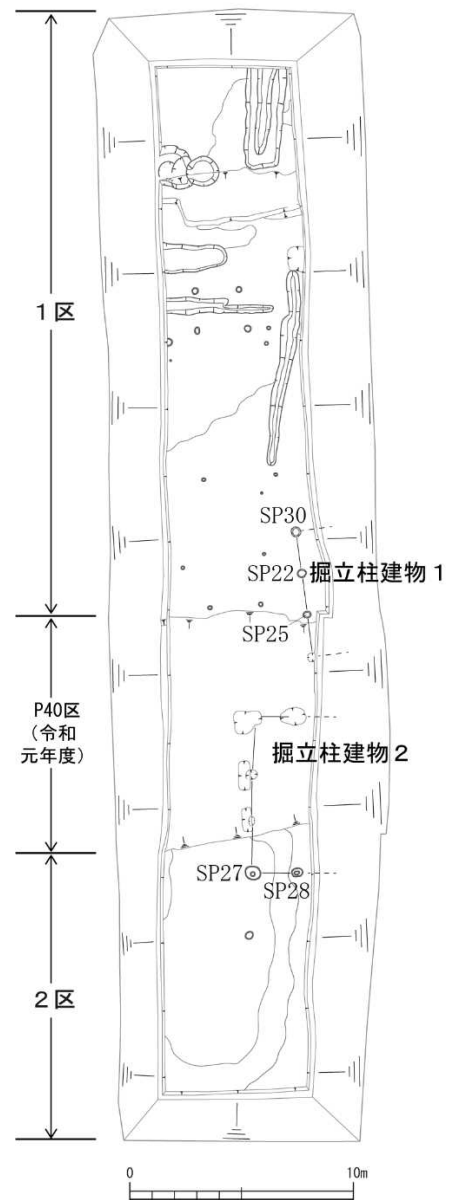
第1面は水田面であり、高さ約25cm、幅約35cmの畦畔を検出した。畦畔は盛り土によって形成され、東西方向に伸びる。遺構面検出時に中世の須恵器・土師器が出土した。

第2面では、調査区東端を南北方向に蛇行しながら伸びる溝を検出した。溝からは古墳時代の須恵器や土師器が出土した。なお、今回は詳細な調査をしえなかったが、第2面精査時に水田畦畔を検出し、水田土壌層を確認した。水田は高さ約4cm～12cmの畦畔で区画される。一枚の形状は方形で、いずれも一辺が5m程度の小区画水田である。

第3面では、調査区南半部を北東-南西方向に延びる溝を検出した。遺構面と溝の中より、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が多量に出土した。これらの土器の内容としては、甕が主体的で、高杯や祭祀的な用途が想定されるミニチュア土器も複数出土した。調査地点付近で祭祀が行われた可能性が想定される。



第1面



1区・2区 第1面 掘立柱建物跡2 (西から)

1区・2区第1面 平面図(下)



1区・2区 第2面 水田（北から）



3区 第2面 溝と水田畦畔検出状況（南から）

3 まとめ

No.167 地点では、1区を除く各段丘面から、土坑や溝、柱穴などの遺構に伴い、18世紀以降の遺物が多量に出土した。このことから、江戸時代に入り、当地が耕作地や屋敷地として、また一部は粘土採掘地として利用されたことが明らかになった。

No.171 地点では、弥生時代前期～中期前葉と平安時代、鎌倉時代～室町時代の遺構と遺物が確認された。とりわけ弥生時代前期の遺構と遺物は特筆すべきである。当地点では、令和元年度の調査成果も合わせると、これまで方形周溝墓2基、土器棺墓7基を検出しており、これらは微高地上に作られた前期の墓域として捉えることができよう。また、溝67は他の溝と比較して、幅や深さ、遺物出土量で突出している。昨年度の1区においても同規模の溝を検出しており、これらの大溝によって墓域が区画されていたと考えられる。一方でこの大溝によって墓域のみを囲っていたか、居住域も含めて囲っていたかは判然としない。さらに、2面目より下層の礫層から縄文時代晩期の土器が出土したことで、付近において、当該期に人々が生活していたことや微高地の形成が縄文時代晩期以降であることが明らかとなった。今回の調査によって、弥生時代前期における土地利用の様相が明らかになったことに加えて、調査事例の少ない農耕開始期の墓域のありかたを考えるうえで、重要な調査成果を得ることができた。

No.175 地点では、弥生時代から近世にかけての遺構と遺物を確認した。今回の調査から、弥生時代後期から古墳時代初頭に付近で祭祀が行われていた可能性があること、古代から中世の間に居住域として利用されていたこと、複数時期にわたって水田として生産活動に利用されていたことなどが判明し、時期によって土地利用のありかたが異なることが明らかとなった。

3 中村群集墳

所在地 神戸市西区平野町
 事業者名 西日本高速道路㈱関西支社
 第二神明道路事務所
 事業名 一般国道2号(第二神明道路)建設事業
 担当者 山田清朝・別府洋二・稲本悠一
 種別 本発掘調査
 期間 令和2年8月18日～11月19日
 面積 1,569 m²



遺跡の位置(「東二見」)

1 調査に至る経過

西日本高速道路(株)関西支社第二神明道路事務所による一般国道2号(第二神明道路)の建設に伴い、県教育委員会が平成30年度に確認調査を行った。その結果、中村群集墳として周知されているNo.179地点で埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかとなった。本年度は、当地点の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

【6号墳】

調査区西端、標高の最も高い地点に位置する、古墳時代前期の古墳である。墳丘は流出しており、その形状や規模は不明だが、墳頂において、埋葬主体の痕跡を確認した。また、東側斜面からは、6号墳に供献されたとみられる土師器壺の一部が出土した。

【7～9号墓】

調査区中央以東は、西側から東へ延びる尾根の傾斜が緩くなり、比較的平坦な地形を呈する。調査区中央よりやや東側の尾根線上において、弥生時代後期の墳墓を3基検出した。

7号墓は、弥生墳墓群の中で最も西側に位置する。大きく流出しているため、墳丘の規模と形状は不明である。7号墓では、2基の埋葬主体を確認した。第1主体部は墳丘の流出に伴い、残存状況は良くない。第2主体部は、第1主体部とは異なり尾根に直交する主軸を取ること、第1主体部の墓坑の深さが5cmであるのに対して55cmと深いこと等から、時期が異なる可能性がある。両埋葬主体には木棺が入られたとみられる。副葬品は出土していないが、7号墓の北西側斜面からは、7号墓に供献されたとみられる弥生時代後期の甕・壺・高杯・器台がまとめて出土した。



7号墓 全景(南西から)



8号墓 全景（北東から）



9号墓 全景（北東から）

8号墓は、弥生墳墓群の中心に位置する墳丘墓である。墳丘の平面形は、約5.2m×5.5mの方形状を呈し、高さは残存高で約0.3mの規模を測る。尾根を削り出すことで成形した、いわゆる台状墓であり、墳丘は尾根に直交するように設けられた溝SD6・SD7によって区画されている。8号墓では、並列する2基の埋葬主体を確認した。両埋葬主体には木棺が入れられたとみられる。いずれの埋葬主体からも副葬品は出土していないが、墳丘東側の溝SD7からは弥生時代後期の広口壺が出土した。

9号墓は、弥生墳墓群の中で最も東側に位置する。墳丘の規模と形状は不明瞭で明らかにしえなかった。9号墓では、1基の埋葬主体を確認した。埋葬主体には木棺が入れられたとみられる。副葬品は出土していない。

【土器棺1～3】

7～9号墓の西側は、西側から東へと傾斜する尾根が部分的に低くなり、鞍部状の地形を呈する。この鞍部の北側斜面で1基、南側斜面で2基、計3基の土器棺を検出した。これらの土器棺は、小児用の墓と考えられるもので、いずれも尾根の斜面に掘り込まれた墓坑に置かれていた。北側斜面に置かれた土器棺1は甕を棺として、高杯を蓋として用いている。南側斜面で検出した土器棺2基は壺を棺として用いており、東側のものを土器棺2、西側のものを土器棺3とした。土器棺は7～9号墓と同一時期のものとみられ、墳墓群と合わせて墓域を構成していたものと考えられる。



土器棺1（北から）

【10号墳】

調査区の東端、尾根の先端部に位置する、古墳時代後期の古墳である。墳丘は流出しており、古墳の規模と形状は不明である。埋葬主体には木棺が入れられたとみられ、遺物は、杯身・杯蓋・高杯・提瓶等の須恵器が出土した。これらの遺物は、もともと棺外に置かれていたが、棺が腐敗したことで内側に落ち込んだものと考えられる。

3 まとめ

中村群集墳はこれまで古墳時代後期の群集墳として知られていた。今回の No.179 地点の調査では、これまで知られていた古墳時代後期の古墳に加え、さらにそれ以前の弥生時代後期から当地が墓域として利用されていたことが明らかとなった。

特に、明石平野周辺では、弥生時代後期の墓域が見つかっていなかったため、当該地域の歴史を考える上で極めて重要な発見となった。今回発見された弥生時代の墓域は、玉津田中遺跡など眼下の明石平野に展開した付近の集落遺跡に住んでいた人々の墓域であった可能性がある。



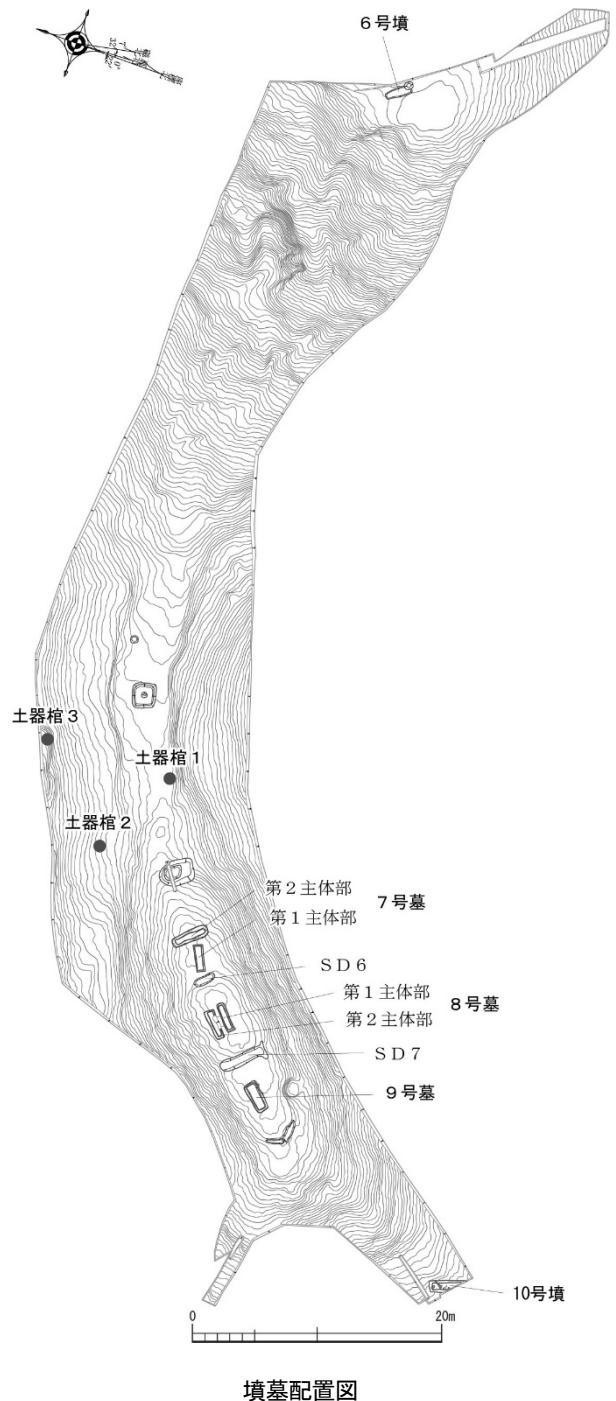
中村群集墳 全景（東から）



土器棺 2 （南から）



10号墳 土器出土状況 （北から）



墳墓配置図

かみとだ
4 上戸田遺跡

遺跡調査番号 2020009

所在地 西脇市上戸田
事業者名 国土交通省近畿地方整備局
兵庫国道事務所
事業名 一般国道175号西脇北バイパス事業
担当者 園原悠斗・松崎光伸
種別 本発掘調査
期間 令和3年1月8日～2月26日
面積 611 m²



遺跡の位置（「西脇」）

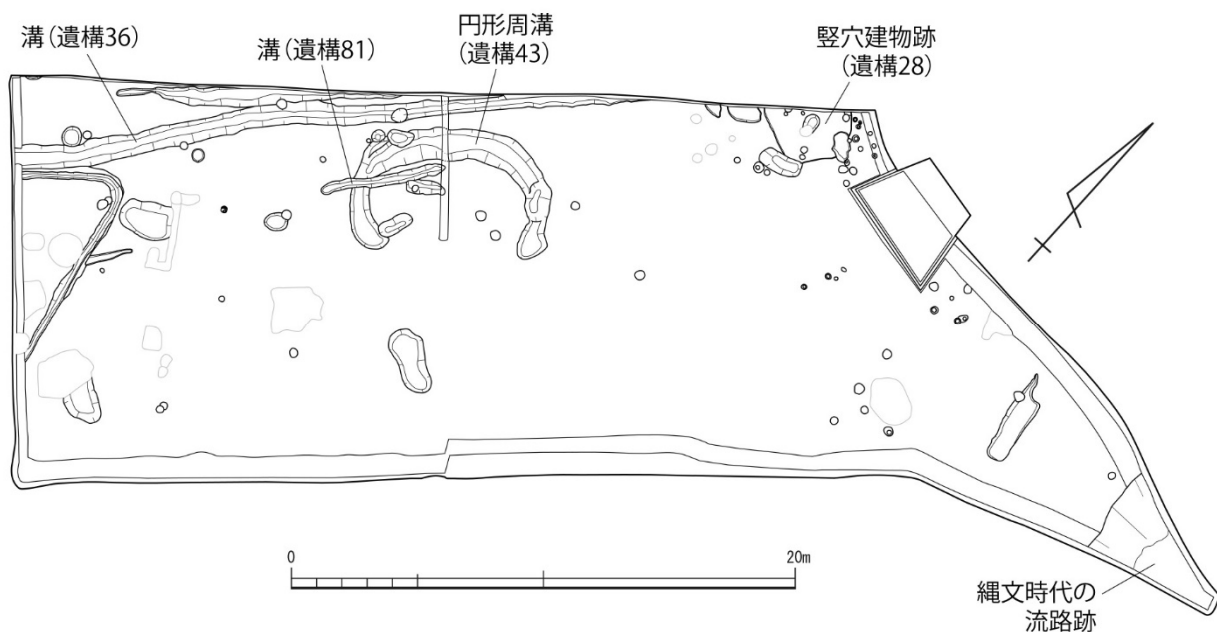
1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所は、西脇市上戸田において一般国道175号西脇北バイパス事業を計画している。当該事業地は、上戸田遺跡（県遺跡番号：140301）として周知されている。上記の工事に先立ち、平成30年度に確認調査を実施し、埋蔵文化財の広がりが見明らかとなった。また、令和元年度には（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が工事対象地の一部の発掘調査を実施した。

以上から国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所からの調査依頼を受け、昨年度に引き続き発掘調査を実施することとなった。

2 調査の概要

現地表から60cm～130cm下で弥生時代後期～平安時代の遺構面を確認した。検出した遺構は、弥生時代後期～庄内式併行期の竪穴建物跡・円形周溝・土坑・溝・柱穴と、平安時代の土坑・柱穴、時期不



調査区全体図



竪穴建物跡（遺構 28）全景



円形周溝（遺構 43）全景



溝（遺構 36）から見つかった弥生時代の鉄器



3方向に石が据え置かれた小土坑（遺構 105）

明の土坑・溝・柱穴である。またその他に縄文時代後期頃の流路跡が見つまっている。

竪穴建物跡（遺構 28）は、調査区北側で検出した。西壁際で見つかったため、検出できた規模は全体の 1/2 程度に留まる。平面形は方形であるが、隅がやや鈍角なことから多角形の可能性も考えられる。検出規模は、壁際で 3.9m である。竪穴建物に付随する遺構として、中央土坑 1 基と柱穴 3 基が見つまっている。帰属時期は、埋土から出土した土器から弥生時代後期～庄内式併行頃と考えられる。

円形周溝（遺構 43）は調査区中央付近で検出した。周溝の深さは 20cm～40cm、幅は 60cm で断面の形状は緩やかな楕円形である。東側は浅くなっており、徐々に消滅していく。そのため本来は円形に廻っていたものが後世の削平を受けていると考えられる。周溝の内側は盛土によって墳丘状を呈しているが、その多くは後世の削平を受けている。遺存する墳丘長は直径 6.2m である。円形周溝墓の可能性が推察されるが主体部は見つっていない。周溝埋土中より弥生時代後期～庄内式併行期の土器片が出土している。

土坑と柱穴は弥生時代後期～庄内式併行期と平安時代のもが見つまっているが、いずれも浅く、遺物は非常に少なかった。そのような中でも、調査区南側で見つかった小土坑（遺構 105）では、25cm 程度の細長い亜円礫が 3 方向に据え置かれており、他の土坑や柱穴と様相が異なる。何らかの埋納土坑か、柱支えなどが考えられる。

溝は、5 条見つまっている。調査区北西壁沿いに集中している。そのうち、遺構 36 からは鉄器が 1 点

出土した。全長 23cm、幅 2.5cm 程度の棒状であり、武器ないしは工具である。この鉄器と共に、弥生時代後期～庄内式併行期頃の土器が出土しており、遺構 36 の埋没時期も当該期頃であると判断される。円形周溝（遺構 43）と切り合う遺構 81 は、全長約 5m、幅 40cm、深さ約 25cm と小規模ながらも、埋土中から須恵器の甕の破片が出土しており、平安時代頃に埋没したと考えられる。

縄文時代の流路跡は調査区北東隅で検出した。深さは 80cm で、調査区外へと広がる。埋土下層及び最下層から縄文時代後期後半頃の土器が出土している。

3 まとめ

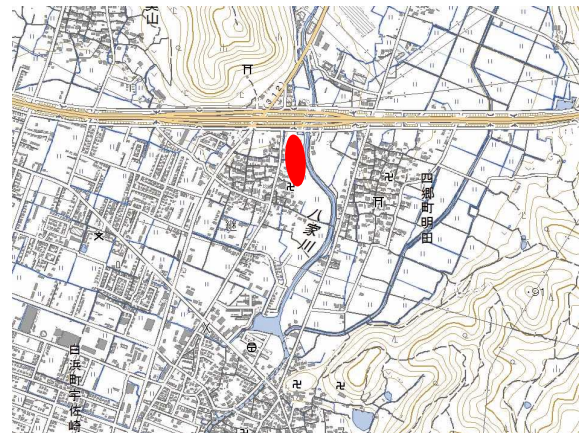
今回の調査では弥生時代後期～庄内式併行期と、平安時代の遺構と遺物が見つかった。中でも弥生時代後期～庄内式併行期の竪穴建物 1 棟と円形周溝（墓）1 基の検出と、溝から出土した鉄器は特筆すべき発見である。西脇市教育委員会による昭和 56 年の調査では、本調査区から南に約 40m の位置で、竪穴建物跡が 1 棟検出されている。この建物から出土した土器は本調査で出土したものと概ね時期が一致しており、この辺り一帯が当時の居住域であったと推定される。ただし、今回検出された墓の可能性のある円形周溝と竪穴建物との間に時期差が生じている可能性があるため、注意が必要である。溝（遺構 36）から出土した鉄器であるが、兵庫県下における弥生時代の鉄器（とりわけ鉄製武器）は、墳墓出土の副葬品と比べて集落内出土事例は少ないことから、重要な発見であると言える。また、上戸田遺跡から近い津万遺跡群でも、同様の時期の鉄鏃が 1 点出土していることから、加古川中流域における鉄器生産を明らかにする上でも良好な資料となり得るであろう。



調査区から北側の丹波方向を望む（中央付近の橋脚は建設中の西脇北バイパス）

5 登り田遺跡

所在地 姫路市継
 事業者名 中播磨県民センター姫路土木事務所
 事業名 事業間連携河川事業
 担当者 青山 航・西山昌孝・乗本愛実
 種別 本発掘調査
 期間 令和2年7月21日～令和3年1月8日
 面積 5,788 m²



遺跡の位置（「姫路南部」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所では、姫路市継において事業間連携河川事業を計画している。事業対象地では平成29年度に兵庫県教育委員会が分布調査(遺跡調査番号 2017031)を実施し、弥生時代～中世の土器を採集した。また、令和元年度には兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所長からの依頼(中播(姫土)第1715号)を受け、本発掘調査B(遺跡調査番号 2019070)を実施した結果、埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかになった。

以上の結果を受け、兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所長からの依頼(令和2年4月13日付中播(姫土)第1018号)に基づき、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

A・B・C・D区の4地区に分けて調査を行った。調査の概要を調査区毎に記す。

【A区】

掘立柱建物跡28棟、溝23条、土坑21基、井戸1基、道路状遺構を検出した。遺物は古墳時代～中世の土器などが出土している。出土した遺物の大半が古代の遺物である。

SD79(溝)より西側は東側と比べ1段高く、造成が行われており、掘立柱建物跡13棟以上を検出した。今回見つかった建物の中では最も大きい規模のSB01(3間×3間)があり、調査区東側に比べ遺構密度が高い点、造成を行い1段高くしている点から登り田遺跡の古代の遺構の中心部が西側の調査区外に広がっていた可能性を指摘できる。

SD79(溝)より東側では、掘立柱建物跡15棟以上を検出している。柱穴の中には礎盤石を据えているものもあり、柱が沈下するのを防いだと考えられる。また、SP127(柱穴)は柱が礎盤石にのった状態で検出している。

SK350(土坑)は長辺約4.2m×短辺約2.7m、深さ約0.2mの飛鳥時代の土坑である。遺物は、須恵器(坏身、壺)、土師器(壺、高坏)、土錘が出土している他、馬の頭蓋骨及び腰椎骨が遺残しており、土坑の大きさからみて少なくとも1体分の馬が埋まっていた可能性がある。

この他、遺物包含層中から古大内式軒丸瓦、土馬(脚部)、緑釉陶器、稜椀、製塩土器など古代官衙に関連する遺物が出土している。

【B区】

柱穴 1 基、溝 2 条、土坑 14 基、井戸 3 基を検出した。遺物は古墳時代初頭（庄内式土器期）～中世の遺物が出土している。遺構からは古代の遺物が多く出土しており、古代の遺構が主体となる。また、土坑 5 基（SK40・SK49・SK53・SK74・SK1001）からは庄内式土器が出土しており、調査区南側で古墳時代初頭の遺構も少ないながら確認している。

・古墳時代初頭（庄内式土器期）の遺構

SK40（土坑）は径約 0.8m、深さ約 1.1m で、遺構内からはほぼ完形の甕、壺、高坏、鉢が約 40 個体出土しており、その多くが甕であった。また、甕の中には吉備地方や、河内地域の土器も認められる。

古墳時代初頭の遺構は B 区以外では検出していない。また、遺構は B 区の南側に限られている。そのため、当該時期の遺構は B 区の南側を北限とし、南側に広がる可能性が高い。

・古代の遺構

SX152（土坑）は、長辺約 2.9m、短辺約 0.75m、深さ約 0.22m の縦長の長方形で、木の蓋の痕跡と思われる炭化層を確認している。遺構の東端からは土師器の他に、土馬が出土している。土馬は頭部及び胴部で 2 体分、脚は 9 本出土している。鞍の表現がされている他、円形刺突により手綱などの馬具の表現がされている。大きさは高さ約 30cm あり、土馬としては大きいサイズである。遺構の中央部、炭化層の直上からは飛鳥時代の須恵器（坏身）及び墓石と考えられる 12cm 程度の石が出土している。遺物から A 区 SK350（土坑）と同時期の遺構と考えられる。

SE180（井戸）は方形縦板組の井戸で隅柱を持つ。幅は井戸側内で 1 辺約 0.75m、深さは 2.7m である。井戸内からは平安時代の甕・坏・皿がほぼ完形で約 100 個体出土している他、木製品（刳物）が伴出している。縦板の木枠の底には瓦、塼が敷かれており、井戸側が沈下するのを防いでいる。

【C区】

調査区西側で 1 区画の大きさが約 4.5m×2.5m 以上の水田 8 筆を検出した。また、南北に伸びる敷粗朶（しきそだ）を検出した。長さ約 9.8m あり、調査区外に続く。幅は約 0.8m ある。地盤の補強に使ったと考えられ、粗朶は松の枝が使われている。また、杭に関しても松材が使われていた。樹皮は剥かれていないものもあり、枝払いが行われているものの平滑に処理されていないものがほとんどで、杭のつくりは粗雑であった。敷粗朶内及びその周辺からは古代の遺物が出土している。

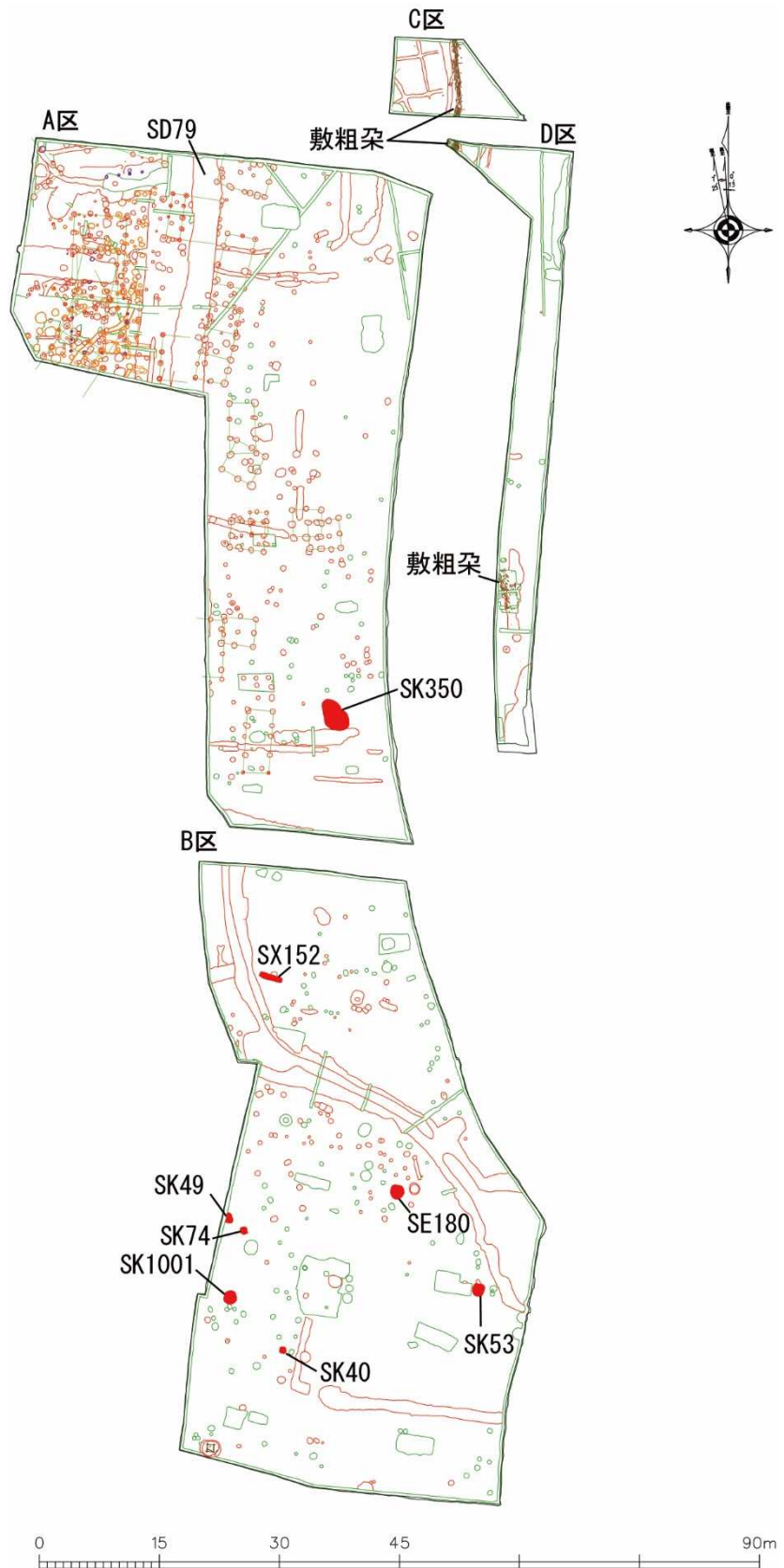
【D区】

調査区中央～南側で柱穴 1 基、溝 2 条、土坑 2 基、河道 1 本を検出した。また、調査区北西側で水田畦畔を検出し、C 区からの延長とみられる敷粗朶を 2 か所で検出した。北側の敷粗朶は長さ約 1.3m、幅約 1.5m あり、調査区外に続いている。また、南西で検出した敷粗朶は長さ約 5m、幅約 0.75m ある。さらに南側約 10m の範囲では杭を検出したものの、敷粗朶は検出することができなかった。この箇所に関しても当時は敷粗朶が敷かれていたと考えられる。C 区と同様に粗朶は松の枝が使われている。杭に関しても松材が使われ、樹皮は剥かれていないものもあった。枝に関しては、枝払いは行われているものの平滑に処理されているものはほとんどなく、杭は粗雑に作られている。

3 まとめ

古墳時代初頭の遺構は、B区
の南側で土坑5基を検出した。
A区・C区・D区ではこの時期
の遺構は検出できなかったため、
古墳時代初頭の集落はB
区の南側からさらに南の調査
区外に広がっている可能性が
高い。SK40（土坑）のように
土坑内に大量の甕を埋納する
事例は吉備地方に認められ、
吉備地方の特徴をもつ甕も出
土しているため当地域と密接
な関係があったと考えられ
る。

A区で検出した掘立柱建物
群、瓦、緑釉陶器、墨書土器、
製塩土器、土馬などの出土遺
物から、本遺跡は官衙的要素
が強いと考えられる。また、A
区SK350（土坑）出土の馬の
骨に関しては、『続日本紀』に
荒れた海を鎮めるため馬を生
贄にささげたとの記述があり、
B区SX152（土坑）の土
馬に関しては、雨乞いの道具
として使われたと考えられ、
両者ともに水辺の祭祀を想定
できる。播磨国風土記飾磨郡
美濃里の条には「継潮（つぎの
みなと）」との記述があり、「姫
路市継」はかねてからその比
定地であった。そのため、今回
の発見により、登り田遺跡が
「継潮」に関連する遺跡一部
である可能性が非常に高まった。



調査区 遺構配置図



A区全景(北から)



A区 SK350 遺物出土状況(西から)



B区全景(北から)



B区 SK40 遺物出土状況(南から)



B区 SE180 遺物出土状況(南から)



B区 SX152 遺物出土状況(東から)



C区敷粗朶検出状況(北から)



D区敷粗朶検出状況(東から)

さいむら
6 才村遺跡

遺跡調査番号 2020001

所在地 姫路市広畑区才
事業者名 中播磨県民センター姫路土木事務所
事業名 (一) 広畑青山線社会資本整備
総合交付金事業
担当者 野田優人・岸本一宏・西山昌孝
乗本愛実
種別 本発掘調査
期間 令和2年4月7日～8月28日
面積 1,712 m²



遺跡の位置（「姫路南部」）

1 調査に至る経過

平成30年度に当該事業地内において確認調査（遺跡調査番号2018019）を実施した結果、遺跡が存在することが明らかとなったため、郷着遺跡や才村遺跡の本発掘調査を行うこととなった。

才村遺跡は令和元年度より本発掘調査を実施しており、これまでに、弥生時代～古墳時代と中世にかけての遺構や遺物が見つかった。いずれの時期の遺構も微高地上に位置しており、集落が営まれていたことが明らかになった。

2 調査の概要

調査区をB②区、C①区の2か所に設定した。B②区は昨年度のB①区の北側に位置しており、C①区は、B②区から50mほど北側に位置している。調査の結果、B②区は遺構面を2面、C①区は1面を確認し、弥生時代末～中世後期までの遺構が標高3.7m～3.8mに存在することが明らかになった。

B②区（1面目）

1面目からは掘立柱建物跡4棟、流路・溝を4条確認した。

各掘立柱建物跡とも、細片の土器が出土しており、時期の特定は困難であった。しかし、掘立柱建物跡SB1・SB2は柱穴の大きさや柱列が直線に並ばない点から中世後期の様相を示すと推定される。流路SR124の底が一部深くなっているものの、緩やかに傾斜していることから、湿地状を呈していたと推定され、溝SD289・SD290の埋土には砂礫が多く含まれていたことから、早い水流はこの部分を通っていたと推定される。

B②区（2面目）

2面目からは竪穴住居跡を21棟、掘立柱建物跡2棟、小型木棺墓4基を検出した。

調査区中央部を北東—南西方向に流れる溝より北側では12棟検出し、平面形は方形または隅丸方形である。南側では、9棟検出し、平面形は8棟が方形または隅丸方形、1棟は円形と推定される住居が見つかった。竪穴住居跡SH2-45・SH2-274の庄内期を除き、おおそ古墳時代中期～後期に収まる。竪穴住居跡には竈を有するものが多く、SH2-14など残存状況が良いものもある。また、特徴的な竪穴住居跡があり、SH2-1の床面の貼り床および、その下に広がる掘形は、その状況から防湿のための造作と推定できる。

調査区南部の北半ではほぼ同一方向で大型掘形を有する掘立柱建物跡（SB2-1・SB2-2）を2棟検出した。SB2-1の床面積は約22.3㎡を有し、掘立柱建物跡としては中規模のものである。柱穴埋土から土器が出土し、おおよそ7世紀前葉と推定できる。一方、SB2-2は土器が細片で時期は不明である。しかし、SB2-1と規模、南北軸の方向が同じであり、さらには飛鳥時代以降に埋まった溝に破壊されていることから、SB2-1と同時期であると判断した。

B②区（1面目）のSR124の下層には同様の方向の溝跡が一部重複しながら存在していた。古墳時代中期末～後期前半（5世紀末～6世紀）と奈良時代ものがある。

調査区南部では小規模な木棺墓跡を4基検出した。1基は調査区南東隅、その他の3基は南部中央東寄りややまとまって存在しており、長軸方向もほぼ同じである。いずれも墓壇長が1.05m～1.2mと規模が小さいことから、幼児や小児といった子供を葬ったものと判断される。

C①区

土坑1基、掘立柱建物跡3棟を確認した。

土坑は調査区北端に位置しており、一部しか検出されなかったため、平面形は方形または、長方形と推定される。長軸は3.7m、短軸は1.6m以上、深さ25cmを測る。埋土からは礫や須恵器碗が出土しており、時期は13世紀代である。各掘立柱建物跡の柱穴埋土から遺物は見つかっていないが、柱穴埋土の様相が土坑の埋土と近似していることから、その時期に近いと考えられる。

3 まとめ

弥生時代末～古墳時代

当該期の集落跡が流路を挟んで、さらに北、西側へと広がることを確認した。令和元年度では、流路の東側で竪穴住居跡を22棟検出し、今年度は流路の東岸で竪穴住居跡を9棟、西岸に12棟を検出した。竪穴住居跡は調査区周辺にも広がるのが予想される。

SB2-1、SB2-2の検出は、特筆される。近畿地方では、住居が竪穴式から掘立柱式に一斉に変わる時期が7世紀前半であることから、本遺跡においても同様に、竪穴住居から掘立柱住居への変化を物語るものとしてとらえられる。

奈良時代～平安時代初め

当該期の遺構は、B②区の一部しか見つかっていない。しかし、暗文土器・稜碗などの官衙的な様相を示す土器が出土していることから、調査地の周辺にそのような施設が存在している可能性がある。令和元年度調査でも、緑釉陶器、須恵器風字硯、円面硯、墨書土器なども見つかっており、さらに、可能性が高まったといえよう。

平安時代中期～室町時代

平安中期～鎌倉時代の遺構は、B②区やC①区で多数検出しており、特に柱穴の数は膨大なものになる。令和元年度調査でも、同時期の柱穴群は見つかっており、今回の調査でも、その続きを検出したことになる。ただし、B②区の北側へと徐々にではあるが柱穴数は希薄となり、集落の中心域はB②区南側と昨年度調査区である可能性がある。室町時代の遺構はB②区の掘立柱建物跡（SB1・SB2）で見ついている。

発掘調査地とその周辺では、これまで発掘調査件数が少なく、長らくその実態は不明瞭な地域であった。本事業にともなう、発掘調査を契機に徐々にではあるが、地域の歴史が明かされてきたといえる。



調査区遠景（北西から）



B②区1面目 上空写真



B②区1面目 流路（西から）



B②区1面 SB1全景（南から）



B②区2面目 竈内土器出土状況（西から）



B②区2面目 SB2-1検出状況（北東から）



C①区 全景（北から）



C①区掘立柱建物跡全景（南東から）

なかすじ
7 中筋遺跡

遺跡調査番号 2020068

所在地 姫路市網干区高田
事業者名 中播磨県民センター姫路土木事務所
事業名 (主) 太子御津線社会資本整備
総合交付金交付金事業
担当者 青山 航・乗本愛実
種別 本発掘調査
期間 令和3年2月4日～3月4日
面積 227 m²



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所は、姫路市網干区高田において、(主) 太子御津線社会資本整備総合交付金事業を行っている。上記事業に伴い、平成26年度と平成29年度に確認調査を行い、埋蔵文化財の存在が明らかになった。そのため、平成29年度から中筋遺跡の本発掘調査を実施している。今回は、中播磨県民センター姫路土木事務所より令和2年10月15日付 中播（姫土）第1648号で依頼を受け実施した本発掘調査である。

2 調査の概要

2面の遺構面を検出した。

【第1面】

柱穴43基、土坑11基、溝7条を検出した。

SD55は南北方向に伸びる溝で、調査区北側で西側に直角に折れている。そのため、屋敷などの区画溝と考えられる。埋土からは中世末の遺物が出土している。

SD55を除き、遺構内から出土した遺物が少ないため、明確な時期を特定するのは難しいものの、包含層から出土した遺物から、中世～近世の遺構面と考えられる。

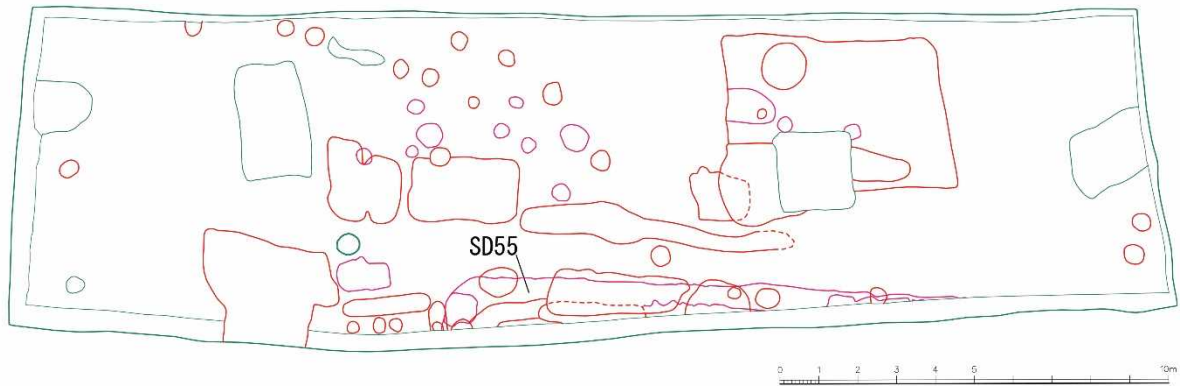
【第2面】

河道の礫の隆起及び落ち込みを確認した。東側は礫が隆起しており、西に向かって礫が落ちていた。また、調査区南側は南北方向の河道（SR1）よりも古い東西方向に伸びる河道（SR2）も確認した。河道内からは古代の遺物が主として出土している。また、礫層検出時に柱穴6基、土坑3基を検出した。

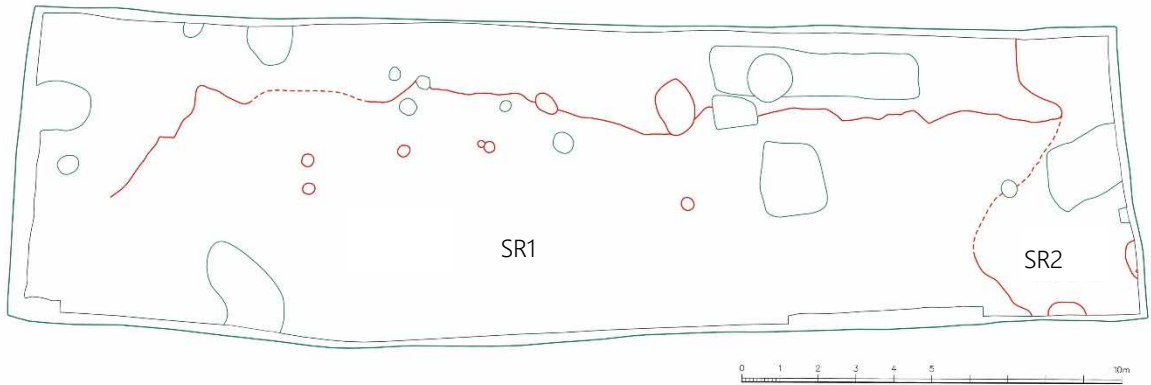
3 まとめ

2面の遺構面を検出した。遺構に伴う遺物が少ないため、明確な時期の断定は難しいものの、第1面は中世～近世を主体とした遺構面、第2面は古代に埋没したと考えられる河道2本と考えられる。

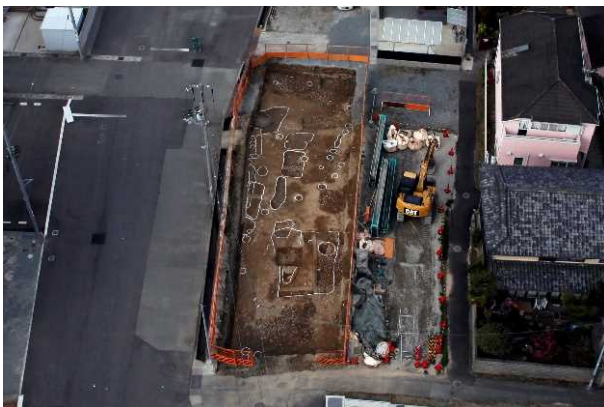
第1面で検出した中世の遺構に関しては、今年度の調査区北側で調査を行った平成30年度の調査成果とほぼ同じ結果となった。また、第2面で検出した古代に埋没した河道に関しては、今年度の調査区南側で調査を行った平成29年度の調査成果と変わらないものであった。



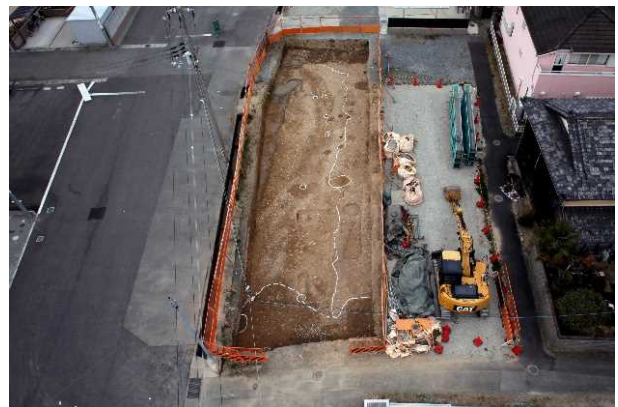
第1面平面図



第2面平面図



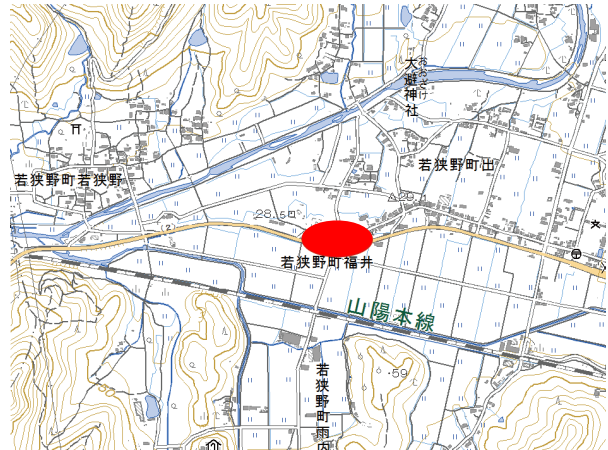
第1面空測写真(南から)



第2面空測写真(南から)

8 福井池の下遺跡

所在地 相生市若狭野町福井～若狭野
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局
 姫路河川国道事務所
 事業名 一般国道2号相生有年道路改築事業
 担当者 垣内拓郎・西山昌孝
 種別 本発掘調査
 期間 令和3年1月6日～2月24日
 面積 276㎡



遺跡の位置（「龍野」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所は、相生市若狭野町福井～若狭野において一般国道2号相生有年道路改築事業を計画している。当該事業地は、福井池の下遺跡（県遺跡地図番号 090099）が周知されており、昭和57年度の圃場整備に伴って一部調査が行われている。

当該事業に伴い、兵庫県教育委員会が平成14年に分布調査（遺跡調査番号 2002183）を実施し、これを受けて平成24・27年度に確認調査（遺跡調査番号 2012056・2015096）を実施した結果、埋蔵文化財包蔵地の存在が広がることが明らかとなり、平成29・30年度に本発掘調査（遺跡調査番号 2017079・2018009）を実施した。引き続き今年度は、令和2年3月18日付け国近整姫工二第124号による国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所長からの依頼を受け、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

福井池の下遺跡は、南北及び東側を山塊に囲まれたやや狭隘な平野部に位置する。平野部には、北側から矢野川と小河川が合流して注ぎ、南側からは雨内大谷川を始めとする複数の小規模の谷川が流れ、いずれも西方へ流向を変えて平野部の西側で合流して千種川へと注ぐ。遺跡はこれらの川に挟まれた氾濫原に立地する。遺跡の東側や南側では圃場整備前には条里地割りが認められたが、現在では南側の地割は不明瞭となるも東側は若狭野条里遺跡（遺跡地図番号：090098）として周知されている。

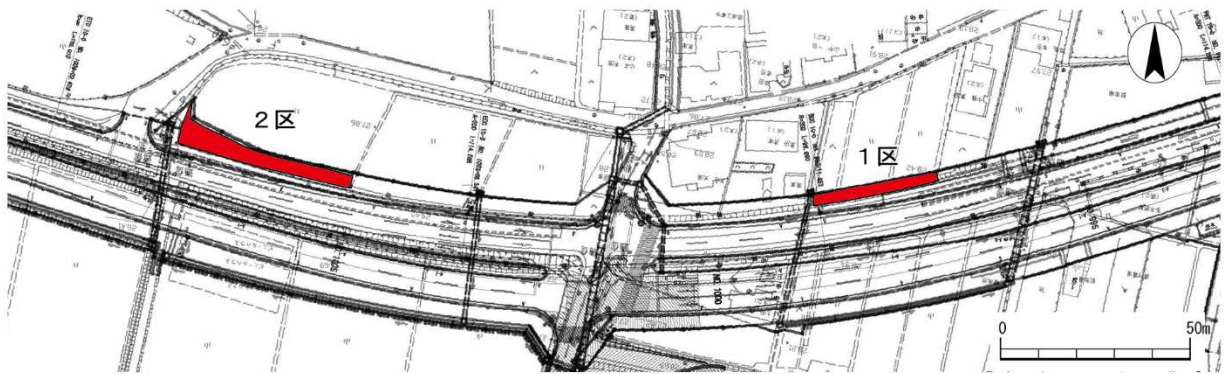
今回の調査地は、国道2号線福井交差点を挟んで約120m離れた東側の1区と西側の2区の2つの調査区にまたがる。いずれも国道の北側に隣接する狭小な調査区で、その規模は1区が東西約33m、南北約3m、2区が東西約47m、南北約3.6～6.8mで、調査区西端では北側に一部が突き出た形となって南北11.6mとなっている。

【1区の調査成果】

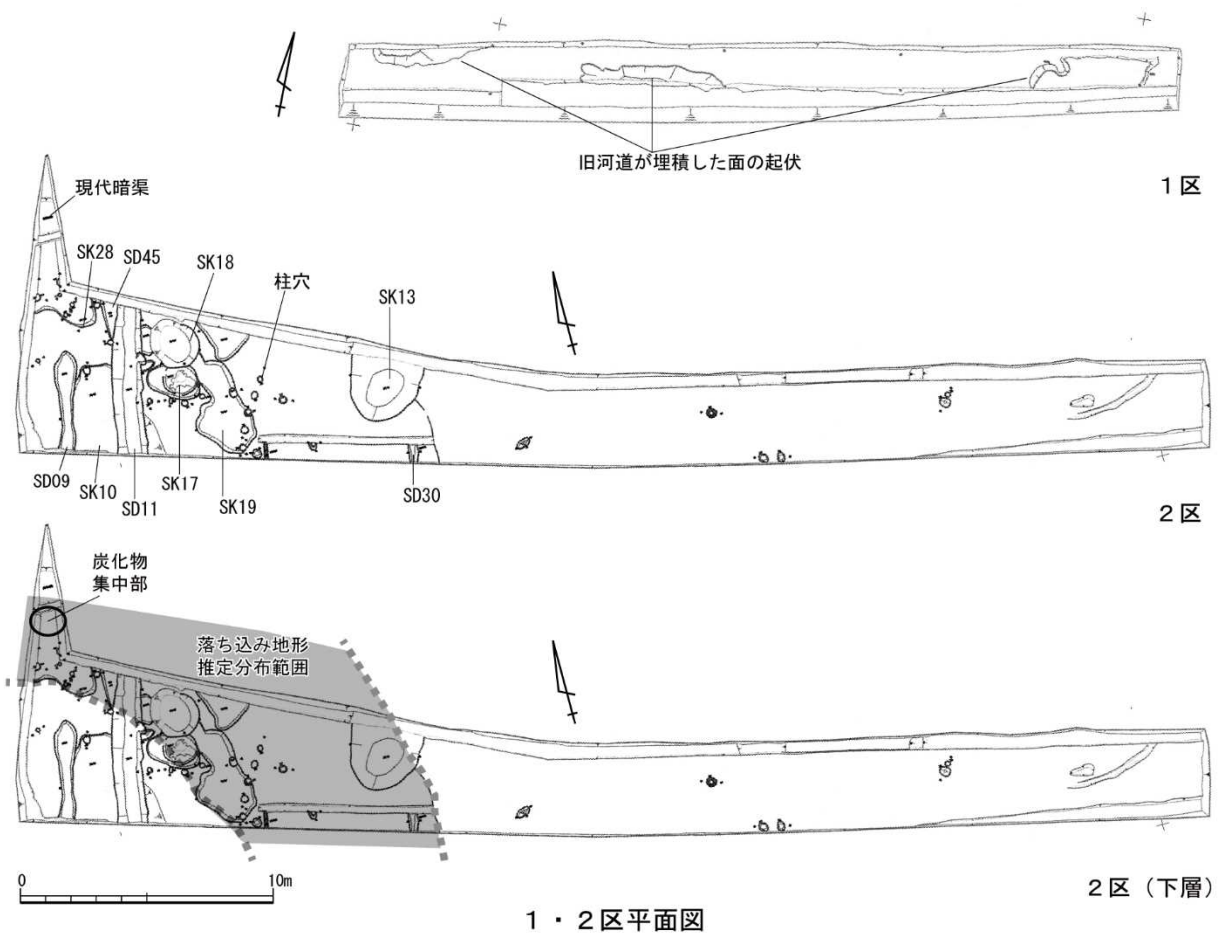
1区では、弥生時代中期に埋積した旧河道の一部を検出した。旧河道埋積後の上面地形は概ね南側へ傾斜して下がっており、河道の中心は調査区南側にあるとみられる。そして河道埋積後には、氾濫堆積物の形成と土壌化が進行したとみられ、調査区北壁断面の精査においてこ



調査区遠景（北から）



調査区位置図



1・2区平面図

福井池の下遺跡（1・2区）調査区位置図と平面図

の形成過程のなかに遺構検出可能な面が少なくとも3面あり、小規模な土坑や足跡が認識できた。これらの層からは弥生時代中期の土器片が出土している。その後も氾濫堆積物が供給され、複数の土壌層や作土層が近現代まで形成されたとみられる。

【2区の調査成果】

2区では、砂礫を主体とする洪水堆積物を基盤として東側が高く西側が低い旧地形となっていたことから、調査区東側では後世の削平等により遺構が殆どみつからなかったが、低くなって土層が比較的厚

く堆積する調査区西半に遺構が集中することが明らかとなった。検出された遺構は、土坑（SK10・18・19・17・28）や柱穴のほか、条里地割に伴う複数時期の南北溝（SD09・SD11・SD30・SD45）が見つかっている。SD11 から出土した須恵器碗から、少なくとも平安時代後期まで条里地割りが遡ることが判明した。さらに、調査区西側ではこれらの遺構検出面の下層に南東から北西に向かって自然に落ち込む地形が土層断面で認められた。この落ち込み地形の最深部にあたる調査区北西隅では炭化物が集中する部分が見つかっており、その上面に弥生土器や足跡の存在が認められた。このことから弥生時代に当該地形の周辺で人間の生活が営まれていたことが推定される。

3 まとめ

調査の結果から、1 区では弥生時代中期に埋積した旧河道を確認した。土層断面からは、その上部に堆積した同時代に氾濫堆積物と土壌層がその上部に形成され、これらの間に少なくとも3つの遺構面の存在が想定された。2 区では、東が高く西側が低い旧地形を確認し、遺構は調査区東半では後世の削平等により殆ど認められなかったが、西半では集中して見つかった。その中でも条里地割りに沿った異なる時期の南北溝を複数検出しており、出土遺物から少なくとも平安時代後期まで遡ることが明らかとなった点は注目される。そして、西側の低い地形の下層にも弥生時代に遡る自然な落ち込み地形が存在し、当該期の人間活動が周辺で営まれていたことが明らかとなった。

福井池の下遺跡は、南北を矢野川や雨内大谷川を初めとした西流する河川に挟まれた氾濫原に立地している。各調査区で確認できた旧河道や洪水堆積物を基盤とする旧地形は、埋没した旧河道を含む河川活動によって運搬された堆積物によって形成された多数の微高地と低地地形の一部といえ、遺構の分布状況や土層堆積状況から調査区北側の現在の集落側へさらに広がる可能性がある。



1区全景（西から）



〈左〉2区全景（西から）



2区SD11断面（南から）

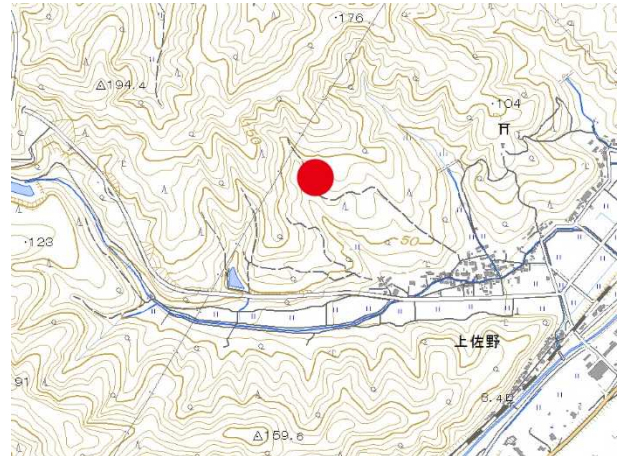


2区下層落ち込み地形
炭化物集中部（南から）

ひろみね
9 広峰遺跡

遺跡調査番号 2020005

所在地 豊岡市佐野
事業者名 国土交通省近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所
事業名 一般国道 483 号豊岡道路
担当者 園原悠斗・松崎光伸
種別 本発掘調査
期間 令和 2 年 11 月 9 日～令和 3 年 1 月 8 日
面積 986 m²



遺跡の位置（「豊岡」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による一般国道 483 号豊岡道路（北近畿自動車道路）の建設に伴い、平成 30 年度に確認調査を実施した。その結果、事業地内に古代～中世の塚が存在することが明らかになったため、事業者からの依頼を受け、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査の結果、集石墓 1 基、集石遺構 2 基、焼土坑 1 基、土坑 6 基の遺構と 8 世紀中頃～後半の土師器・須恵器、鉄片が出土した。

【遺構】

集石墓

低い円丘状を成す丘陵の最頂部に位置する。現状では人頭大の石を直径 10m 程度の円形に集めているようだが、一部では直線を意識した部分もあり、ドローンによる空中写真では大きな方形にも見える。遺構の崩壊等によって形態が変化した可能性が考えられる。盛土は確認されておらず、地山削り出しである。積み上げられた石を取り除くと、2.6m×1.9m の四隅に墓坑を取り囲むように立石を検出した。この四隅立石から推定される墳形は方形で、集石の遺存状況から規模は 6.5m×5.0m 以上であると考えられる。石の積み方は、目地が通っておらず規則性に欠けるものの、比較的平坦な面を底にしており終末期古墳の貼石状の葺石を連想させる。集石墓中央付近は、検出前から陥没しており石が落ち込んでいた。長軸 2.0m、短軸 1.4m、深さ 40cm の不整形な長方形の土坑を検出した。平面形が不整形である点や遺物が出土しない点から盗掘を受けている可能性が考えられる。

集石遺構

集石墓の南側で 2 基を隣接して検出した。そのうち 1 基からは人為的に孔が三つ穿かれた拳大の円礫が見つかった。しかし、集石下には土坑は見られず、土器等の出土が無いため詳細は不明である。

焼土坑

焼土坑は尾根の西側裾付近の平坦面で検出した。直径 92cm、深さ 35cm で、横断面の形状は逆台形である。土坑の壁体には厚さ 2cm 程度の焼土が貼りついており、底面直上からは炭化物片が一定量出土した。集石墓との距離から、死者を火葬した場所である可能性が考えられるが、今後検討を要する。

土坑

土坑 6 基の内、集石墓南側の一つは土器埋納土坑である。平面形は不整楕円形で、深さは 34cm である。底には方形の石を据えており、その上で土師器甕の破片が出土した。

【出土遺物】

遺構内や検出面直上から須恵器・土師器・鉄片が見つまっている。時期は 8 世紀中頃～後半であるため、遺構も同時期と考えられる。

3 まとめ

今回の調査では、北側背後に遮蔽性の高い丘陵が存在し、集石墓のある丘陵尾根を取り囲むように左右が南側へとやや張り出し、南側及び南東側は低丘で開放されているという造営の立地から、風水思想を取り入れた埋葬地の選択が想定できる。これは終末期古墳からの系譜も見込まれ、当地の有力者の奥津城であった可能性がある。集石墓周辺の尾根斜面からは、須恵器・土師器の皿や碗、坏身坏蓋、甕などが出土しており、飲食供献儀礼の様子が窺える。



広峰遺跡遠景（北西上空から）



集石墓全景（北西から）



立石検出（集石墓）（南から）



土坑内遺物出土状況（南から）



穿孔した石出土状況（集石遺構）（西から）

10 柏原旧城下町

所在地 丹波市柏原町柏原
 事業者名 大阪高等裁判所事務局会計課
 事業名 神戸地家裁柏原支部新営等建築工事
 担当者 園原悠斗・松崎光伸
 種別 本発掘調査
 期間 令和2年8月24日～10月23日
 面積 801 m²



遺跡の位置（「柏原」）

1 調査に至る経過

大阪高等裁判所事務局会計課は、丹波市柏原町柏原 439 番地内において神戸地方家庭裁判所柏原支部新営等の建築を計画している。当該事業地は、柏原旧城下町（県遺跡番号：760230）として周知されている。上記の工事に先立ち、令和元年度に仮庁舎新営に伴う発掘調査（遺跡調査番号：2019040）が兵庫県立考古博物館によって行われ、埋蔵文化財が遺存していることが明らかとなった。以上から、大阪高等裁判所事務局会計課からの調査依頼を受け、新庁舎に該当する箇所の本発掘調査を実施することとなった。

2 調査の概要

調査の結果、江戸時代後期（18世紀後半～19世紀前半）の家老屋敷に関連する遺構（漆喰遺構・（暗渠）石組み排水路・埋桶遺構・埋甕遺構・土坑・柱穴・鋤溝・溝）と遺物（国産陶磁器・瓦・金属製品・石製品・木製品・貝類）が見つかった。

【遺構】

遺構は、漆喰遺構・（暗渠）石組み排水路・埋桶遺構・埋甕遺構・土坑・柱穴・鋤溝・溝を検出した。

漆喰遺構

調査区西部で1基検出した。長軸 1.5m、短軸 1.4m、深さ 0.65m で、壁体及び床面が漆喰で作られている。床面の漆喰が黒色に変色していることから厠跡であると推測される。床面漆喰下の構造確認を行ったところ、漆喰下は人頭大の垂角礫が敷き詰められ、その上に粘性の強い粘土を面的に検出した。当調査区の地質は不安定であることから、これらは湧水を防ぐためのものであると考えられる。

（暗渠）石組み排水路

（暗渠）石組み排水路は、調査区北部中央付近から南東部で検出した。現代の攪乱により半分以上消失している。この排水路の片側は北西部の方向へ進み調査区外へ続き、もう片側は調査区東際で検出し、南方向に進み調査区外へ続くと思われる。石組み排水路は、調査区北側中央付近で南北方向に検出した。検出長は 3.6m で、3cm 大の垂角礫が使用されている。この石組排水路には蓋石がなく、上述の暗渠排水路より検出高が高いことから、生活面に露頭していたと考えられる。

埋桶遺構

直径 6cm、高さ 6cm の木桶を石組排水路の南側で検出した。また、石組排水路の北側で深さ 15cm 程度の土坑が見つかった。石組排水路の両端に土坑と埋桶がある状況を踏まえると、水場としての利用が想定できる。

埋甕遺構

調査区北東隅・西部・南東隅付近で埋甕遺構を 4 基検出した。全て丹波焼の甕を使用している。北東隅のものは、土器内面に凝固したカルシウムが張り付いており、便槽であると考えられる。西部のものは、前述した漆喰遺構に隣接して見つかっており、手水鉢としての利用が想定される。

土坑

土坑は調査区北西部に集中しており、長軸 2m 以上の大型のものが多い。深さは 30cm 程度で、埋土中より多量の国産陶磁器・銅製品・木製品が出土している。土坑の多くが土器廃棄を目的としたものであると考えられる。

柱穴

調査区全体で 50 基検出した。建物状に並ぶものは見つからなかった。

鋤溝

調査区北部中央やや西寄りでは 5 条検出した。埋土からは国産陶磁器が出土している。

【出土遺物】

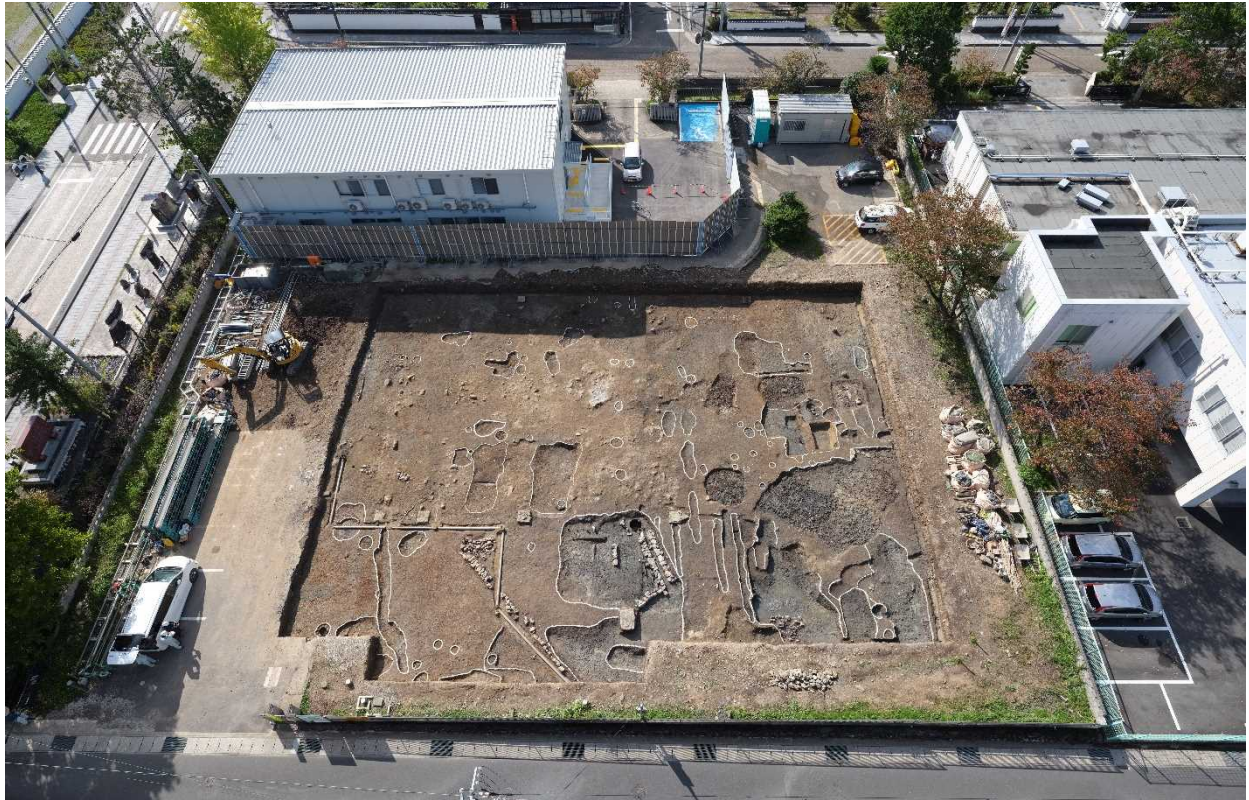
遺構及び包含層から出土した遺物は、国産陶磁器・瓦・金属製品・石製品・木製品・貝類である。国産陶器は丹波焼、国産磁器は伊万里焼、瀬戸・美濃焼、京・信楽焼、三田・王地山焼、京焼系の染付・青磁・白磁・赤絵などが出土している。金属製品は、銅銭（寛永通宝）、キセル、鋸（刀装具）、鉛弾、指輪、飾り金具、襖金具が出土している。石製品は、硯、碁石が出土している。木製品は、下駄、箸、碁盤の脚、漆塗り板材、建築部材、桶が出土している。18 世紀後半～19 世紀前半の遺物が多くを占めている。

3 まとめ

調査区内は昭和 37 年に落成した裁判所の基礎で大きく攪乱されていたが、残存している部分から多くの遺構と遺物が見つかった。遺構の埋没時期は 19 世紀代の江戸時代後期～幕末頃と考えられる。当該期に描かれた柏原藩の藩士宅地割りを示した絵図によると、柏原陣屋の正面にあたるこの場所は、柏原藩織田家の筆頭家老である「津田内蔵助」の屋敷地となっており、家格に相応しい区画を占めていたことがわかる。

屋敷での当時の生活が窺える遺構として、埋甕遺構・鋤溝・漆喰遺構（厠跡）・暗渠排水路・石組み排水路（結桶を含む水場）が挙げられ、これらは調査区の北側及び西側に集中している。江戸時代後期の絵図や昭和初期の古写真から、旧津田家屋敷の入口は南側の大手通りに面していたことが判明しており、今回検出した遺構は主屋の裏に水場や排水路、厠、畑があったことを示している。また、これらの遺構を切るようにして土器廃棄土坑が存在し、日常生活の道具を一括で廃棄していた。

これらの遺構から出土した遺物は、煎茶道具や花器、壺、皿といった多量の国産陶磁器や青銅製の指輪、飾り金具など優品が多い。また、柏原藩の藩主織田家の家紋である織田木瓜をかたどった軒丸瓦も出土している。今回の調査では、江戸時代後期における家老屋敷の様相の解明に繋がる遺構と、柏原藩における津田家の格の高さが窺える遺物が明らかになったと言える。



調査区全景（北から）



埋桶出土状況（東から）



漆喰遺構全景（南東から）



石組排水路・木桶検出状況（北西から）

第3章 出土品整理事業の概要

出土品整理については全て（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託し、兵庫県立考古博物館及び同魚住分館にて作業を行った。実施した作業は水洗い、ネーミング、接合・補強、復元、実測、写真撮影、図面補正、トレース、レイアウト、保存処理、分析鑑定、報告書刊行であり、このうち写真撮影と分析鑑定についてはまちづくり技術センターから専門業者に委託して実施した。

令和2年度に出土品整理を実施した事業は下表のとおり16件であり、内訳は国事業7件、県事業8件、町事業1件である。このうち3件については最終年度として発掘調査報告書を刊行した。



刊行報告書



接合



実測



復元・色塗り



トレース

	事業者	事業名	遺跡名	報告書 冊番号
1	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所	国道2号明石駅前交差点改良事業	明石城武家屋敷	
2	国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	一般国道483号北近畿豊岡自動車道 八鹿豊岡南道路	藤井古墳群	第515冊
3			南構古墳群	
4			定谷遺跡	
5			耳谷草山古墳群	
6			大木谷古墳群	
7	国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	一般国道2号バイパス改築事業	池ノ下遺跡	
8	兵庫県東播磨県民局 加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区 (主要地方道加古川小野線) 道路改築事業	宗佐遺跡・宗佐南遺跡	
9	兵庫県中播磨県民 センター 姫路土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合交付金 事業	前田遺跡・中筋遺跡	
10	兵庫県西播磨県民局 龍野土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合交付金 事業	鍛冶田遺跡	
11		(国) 179号(太子道路) 防災・安全交付金事業	鳩遺跡	
12	兵庫県西播磨県民局 光都農林振興事務所	県単独緊急防災事業	竹原9号窯	
13	兵庫県但馬県民局 養父土木事務所	(急) 上地(3)地区急傾斜地崩壊対策事業	音谷1号墳	
14	兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所	(国) 372号丹南バイパス道路改良事業	波賀野遺跡・波賀野西遺跡	第516冊
15	兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所	上加茂バイパス建設事業	宮ノ谷遺跡	第517冊
16	新温泉町	新温泉町新残土処分場整備事業	和泉谷・津原古墳群	

第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

1 事業の概要

平成29年度より、市町教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を支援するために、「市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業」を開始した。この事業は発掘調査量の一時的な急増に伴う人員の不足や、経験の少ない職員の技能向上など、市町教育委員会が抱える課題に対して支援をおこなうものである。事業は（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が県教育委員会文化財課・県立考古博物館との連携・協力により実施している。今年度は発掘調査支援に関しては該当がなかった。

2 市町職員研修

【概要】

市町等の埋蔵文化財担当職員の資質向上をはかるため、兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館との連携・協力により、業務の遂行に必要な知識・技術に関する研修及び発掘調査成果連絡会を実施した。

【埋蔵文化財担当職員研修（専門技術研修）】

テーマ 埋蔵文化財保護行政について
 沖積地の遺跡における土層堆積の理解
 （講義・実習内容・講師は下の表のとおり）
 日時 令和2年9月10日（木）～11日（金）
 対象 採用後概ね5年以内の市町等埋蔵文化財担当職員
 会場 兵庫県立考古博物館 講堂
 中村公会堂（神戸市西区平野町中津）
 玉津田中遺跡発掘現場
 参加者 27名



研修状況

	内容	講師
講義1	埋蔵文化財保護行政の仕組みと法的知識	大本朋弥（兵庫県教育委員会文化財課主任）
講義2	発掘調査の実務と報告書作成	永恵裕和（兵庫県立考古博物館埋蔵文化財課主任）
講義3	文化財保護法改正をめぐって	甲斐昭光（兵庫県教育委員会文化財課長）
講義4	玉津田中遺跡の概要	篠宮 正（（公財）兵庫県まちづくり技術センター調査第2課長）
講義5	土層の観察と記録の方法1	垣内拓郎（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主査）
実習1	土層の観察と記録	篠宮・垣内他（（公財）兵庫県まちづくり技術センター職員）
講義6	土層の観察と記録の方法2	垣内拓郎（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主査）
講義7	集落立地と地形環境	青木哲哉（立命館大学）

第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

1 現地説明会の開催

発掘作業の現場で現地説明会を開催し、発掘現場を体感する機会を提供している。令和2年度は6遺跡で9回の現地説明会を開催し、延べ993人の方が参加した。

なお、現地説明会の開催にあたっては兵庫県の新型コロナウイルス感染症の対応として、検温など健康状態の確認、消毒、マスク着用、連絡先記入（一定期間保管後処分）をお願いし、開会挨拶なし、人数制限、一方通行など密にならない対策をとった上で実施した。

遺跡名	所在地	開催日	参加者数
才村遺跡	姫路市	令和2年7月18日(土)	165人
玉津田中遺跡	神戸市西区	令和2年8月30日(日) 午前・午後2回	156人
登り田遺跡	姫路市	令和2年10月4日(日)	196人
柏原旧城下町	丹波市	令和2年10月6日(火)	23人
中村群集墳	神戸市西区	令和2年11月8日(日)	144人
兵庫津遺跡	神戸市兵庫区	令和2年11月13日(金)	52人
兵庫津遺跡	神戸市兵庫区	令和2年11月14日(土)	166人
登り田遺跡	姫路市	令和2年12月12日(土)	91人
合計			993人



玉津田中遺跡



中村群集墳



兵庫津遺跡



登り田遺跡

2 発掘調査速報パネル展示

県立考古博物館のネットワークひろばに、博物館来館者を対象に、現地説明会で使用した写真パネルを展示ボードに掲示するとともに、現地説明会資料を配付した。

1年間で1,300部の資料を配付した。

	遺跡名	パネル展示・資料配付期間
1	関ノ口遺跡	令和2年6月2日～9月6日
2	玉津田中遺跡	令和2年6月2日～9月6日
3	才村遺跡	令和2年8月4日～10月18日
4	玉津田中遺跡	令和2年9月8日～11月23日
5	登り田遺跡	令和2年10月20日～11月23日
6	中村群集墳	令和2年11月25日～令和3年3月31日
7	兵庫津遺跡	令和2年11月25日～令和3年3月31日



発掘調査速報パネル展示

3 発掘調査の状況をHPで情報発信

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターのホームページに最新の調査成果を随時更新して発信しており、1年間で2,964件のアクセスがあった。

埋蔵文化財調査

- 埋蔵文化財調査
- 埋蔵文化財発掘調査情報
- 過去の埋蔵文化財発掘調査情報
- 兵庫県埋蔵文化財情報 (ひょうごの遺跡)

技術情報提供・技術者育成

埋蔵文化財発掘調査情報

[←発掘調査情報一覧へ](#)

● 中村群集墳他 令和2年11月10日

一般国道2号(第二神明道路)建設事業に伴って、発掘調査を行っています。


遺跡名	中村群集墳他
時代	弥生～近世
遺跡の種類	古墳、集落跡
所在地	神戸市西区平野町
連絡先	埋蔵文化財調査部 (079) 437-5561
発掘成果	現在、時石川東岸の玉津田中遺跡No.167地点2区とNo.171地点6区、間川西岸の丘陵上の中村群集墳を調査しています。No.167地点では近世の遺構が、No.175地点1面目では柱穴や溝が見つかりました。中村群集墳では、3基の墳墓や土器等からなる弥生時代後期の墓域と古墳時代前期と後期の埋葬施設が見つっています。
説明会資料	現地説明会資料はこちら



7～9号墳



8号墳全景



出土した土器

埋蔵文化財発掘調査情報

[←発掘調査情報一覧へ](#)

● 兵庫津遺跡 令和2年11月16日

県庁発祥の地整備事業に伴って、発掘調査を行っています。

遺跡名	兵庫津遺跡
時代	江戸～明治
遺跡の種類	町屋・城下町
所在地	神戸市兵庫区中之島
連絡先	埋蔵文化財調査部 (079) 437-5561
発掘成果	兵庫津遺跡では、南北・東西の街路とそれに面して町屋が見つっています。おおよそ、18～19世紀の遺物が出土しているため、その頃の遺構だと考えられます。町屋のなかには、火災にあったものもあり、炭化した建築材が見つっています。
説明会資料	現地説明会資料はこちら



街路と町屋跡



火災のあった町屋跡



土器の出土状況

4 発掘調査速報会の開催

令和2年度に実施した発掘調査成果の発表、討論会を行うなど、最新の調査成果を広く県民に公開するための発掘調査速報会を開催した。

主 催 (公財) 兵庫県まちづくり技術センター・県立考古博物館

日 時 令和3年3月7日(日) 13:30~17:00

会 場 兵庫県立考古博物館 講堂

参加者数 60名(73名応募があり、コロナ感染防止対策のため抽選で60名とした)

【調査成果の発表】

- ・玉津田中遺跡(神戸市西区)ー弥生時代前期の墓地ー 園原悠斗
- ・登り田遺跡(姫路市)ー古代の官衙関連遺跡ー 青山 航
- ・柏原旧城下町(丹波市)ー柏原藩の家老屋敷ー 松崎光伸
- ・兵庫津遺跡(神戸市兵庫区)ー近世の港湾遺跡ー 野田優人

【発表遺跡にかかる討論】

- ・和田晴吾兵庫県立考古博物館館長及び発表者

【展示解説】

- ・企画展「ひょうごの遺跡2020」の展示品を調査担当者が解説



調査成果の発表



調査成果の発表



討論の様子



展示解説

5 『ひょうごの遺跡』の刊行

センター埋蔵文化財調査部では、埋蔵文化財情報誌「ひょうごの遺跡」102号・103号を各4000部刊行・配布し、最新の発掘調査の成果を公開した。

『ひょうごの遺跡』102号（令和2年10月2日発行）

発掘調査の成果 令和元年度

- ・焼失した住居跡からわかるもの—城山遺跡（揖保郡太子町鷗）
- ・中世鷗荘集落の土地利用—福田小川原遺跡（たつの市誉田町）
- ・廂をもった特殊な建物—関ノ口遺跡（姫路市網干区和久）

発掘調査の成果 令和2年度

- ・40棟以上の竪穴住居跡が現る—才村遺跡（姫路市広畑区才）
- ・溝に囲まれた弥生時代前期の墓域—玉津田中遺跡（神戸市西区平野町）

特集 大中遺跡を空中散歩

発掘調査あれこれ⑦ 調査場所を決める！

『ひょうごの遺跡』103号（令和3年3月3日発行）

発掘調査の成果 令和2年度下半期

- ・播磨国風土記の継潮か？—登り田遺跡（姫路市継）
- ・明石平野を見下ろす墓地—中村群集墳（神戸市西区平野町）
- ・奈良時代の有力者が眠る集石墓—広峰遺跡（豊岡市佐野）
- ・細部に宿る経済的格差—兵庫津遺跡（神戸市兵庫区中之島）
- ・柏原藩筆頭家老の屋敷跡—柏原旧城下町（丹波市柏原町柏原）

ひょうごの掘り出しもの～第1回～

- ・「五層天守」の土製品（神戸市・兵庫津遺跡）



6 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡～」の実施

センター埋蔵文化財調査部の事業を一般県民にPRすると共に、考古学に興味を持ってもらい埋蔵文化財保護について理解を得るために実際の発掘現場において、自分の手で古代の土器を掘り出す体験会を実施した。令和2年10月24日（土）に兵庫津遺跡（神戸市兵庫区）で実施し、25名の参加があった。



発掘体験



遺物洗浄体験

令和 2 年度埋蔵文化財調査年報

発行日 令和 3 (2021) 年 12 月 31 日

編集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 - 1

TEL 079-437-5589 FAX 079-437-5599

<https://www.hyogo-koukohaku.jp/>
